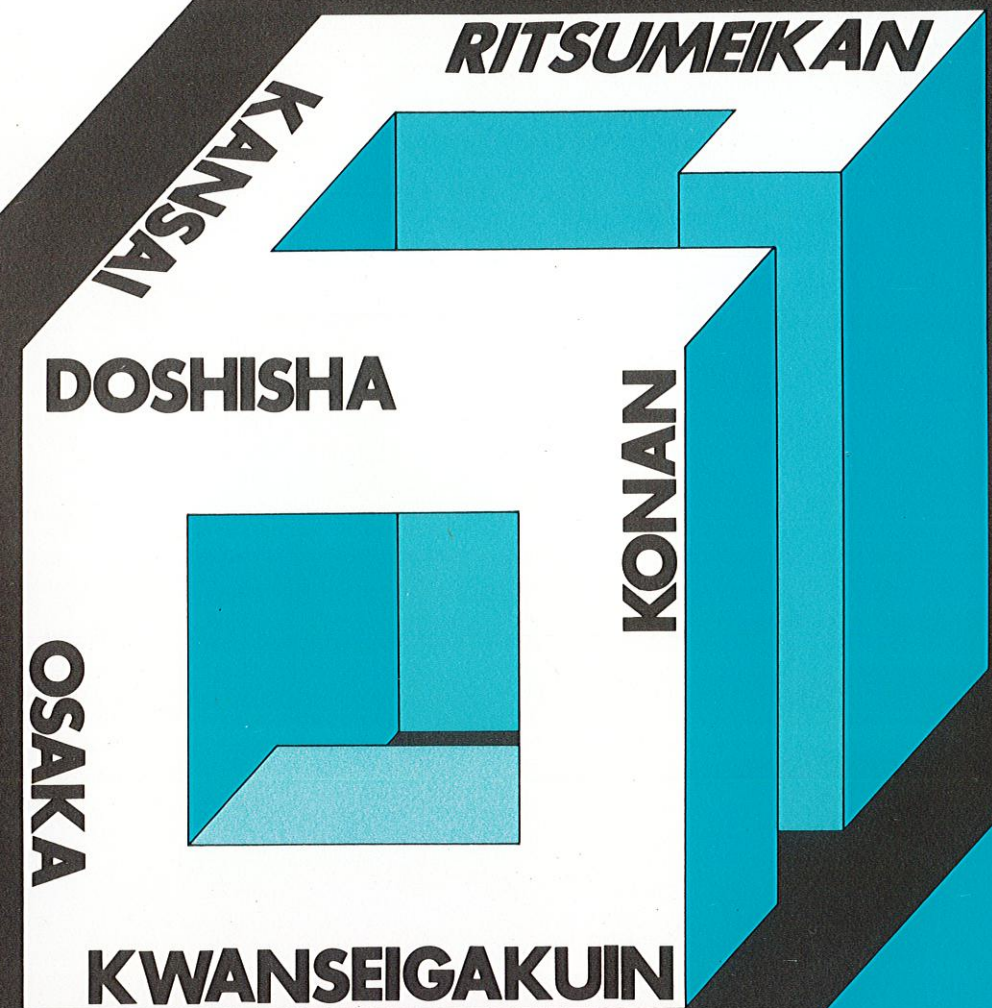


第9回  
**関西六大学合唱演奏会**





# 第9回 関西六大学合唱演奏会

1982.11.3(水) 大阪フェスティバルホール



## 関西大学学歌

自然の秀麗 人の親和  
たぐいなき 此の学園  
我等立つ 人生の曙に  
燦たる理想を 仰ぎつつ  
学ぶは一途 純正の  
若き心に 讃えなん  
関西大学 関西大学  
関西大学 長き歴史

## 立命館大学校歌

あかき血潮胸にみちて  
若人真理の泉を汲みつ  
仰げば比叡 千古のみどり  
ふす目に清しや 鴨の流れの  
かがみもたふとし 天の明命  
見よ わが母校  
立命 立命

## 甲南学園歌

みはるかす 茅渚の海  
日にひかり 雨にけむり  
わかうどの 夢をさそう  
甲南 この学び舎  
さわやかに 山のかぜ  
目にしたし 木々のみどり  
わかうどの 心は澄む  
甲南 この学び舎

## 大阪大学学生歌

生駒の嶺に 朝影さして  
緑風さやけき 銀杏の木蔭  
若きいのちは 力あふれて  
歌ぞおほらに 望みはるけし  
叡智の泉 掬みてつきせず  
ほこりあり 真理の岡辺

## DOSHISHA COLLEGE SONG

One purpose Doshisha, thy name  
Doth signify one lofty aim.  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater sons of thine  
Shall be as branches to the vine.  
Tho' through the world we wander  
far and wide.  
Still in our hearts thy precepts  
shall abide.

## OLD KWANSEI

Tune ev'ry heart and ev'ry voice,  
Throw ev'ry care away;  
Let all with one accord rejoice,  
In praise of Old Kwansei;  
In praise of Kwansei Gakuin,  
In praise of Old Kwansei,  
Her sons will give, while they shall live,  
Banzai, Banzai, Kwansei!

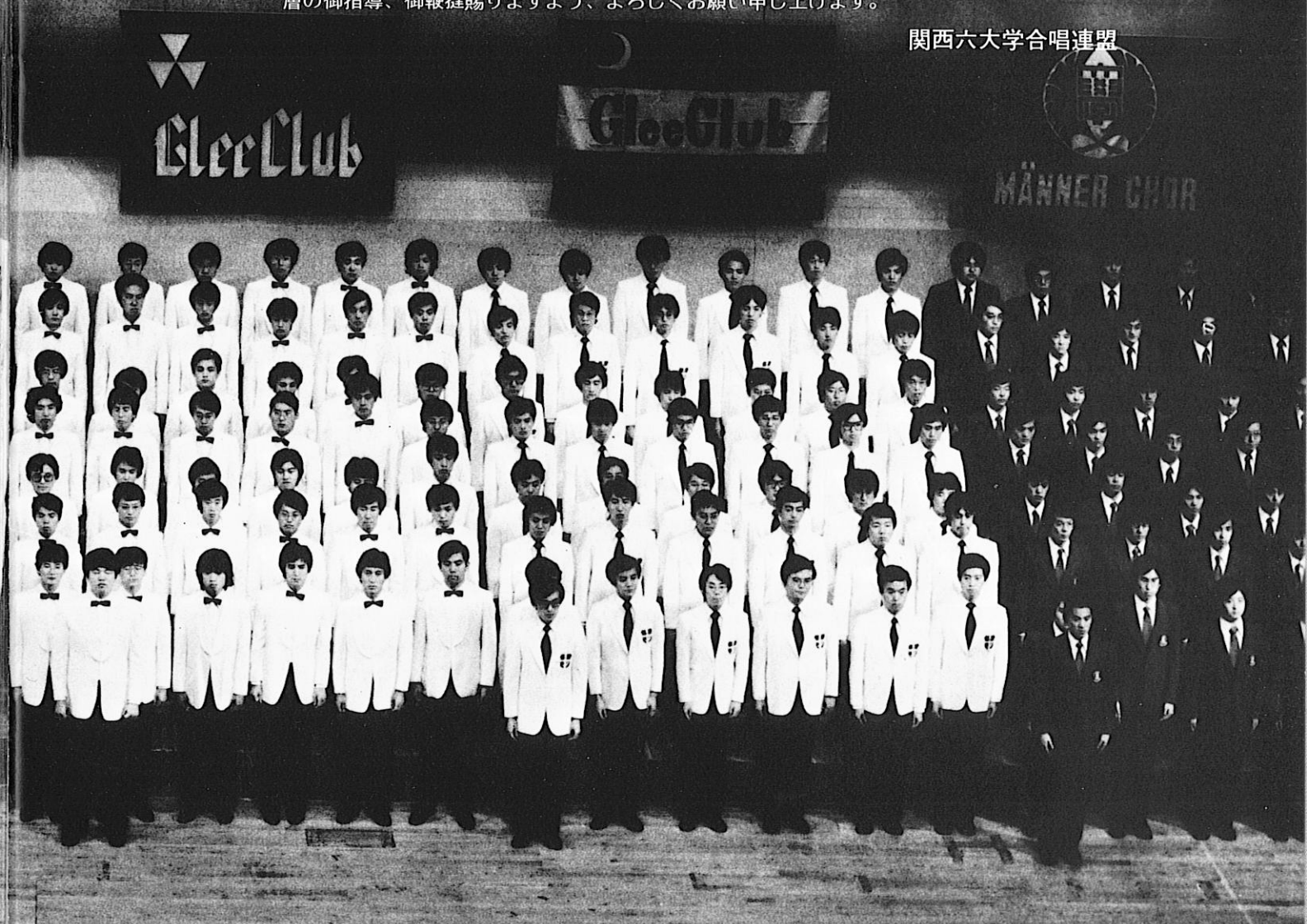
## 御挨拶

本日は私達の演奏会にお越しいただきありがとうございます。

早いものでこの演奏会も、来年10回目を迎えます。その一つの区切りを迎えるにあたって、今回の合同ステージに、関屋先生をお迎えし、御指導いただけることは、この上ない喜びであり、これを機会に、更に皆様に満足していただける演奏会にするため努力する所存であります。

最後に、この演奏会の開催にあたり、御支援下さいました関係諸氏、並びに本日御来場いただきました皆様に深く感謝いたしますと共に、これからの関西六大学合唱連盟のために、尚一層の御指導、御鞭撻賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

関西六大学合唱連盟





関西合唱連盟会長 **長 井 齊**  
偉容を整えた関西六連

男声合唱こそは、学生合唱の独壇場であることに今も変りはないようですが、遠く昭和5年に、関西学生合唱連盟というのが京阪神地区にあった旧制の大学・高・専校の30余団体によって結成せられ、毎年盛んな合唱祭が敢行されていたのです。終戦後には逸速く、関西合唱連盟が組織され、これに合流したのですが、当時、各都市には数多くの大学が新設され、女声部の進展もあって、優秀な一般混声合唱団の出現を促がす一助ともなったわけです。関西地区には、他に有力な大学の現役及びOB団体のあることを力強く思っているのですが、その間にあって、最も古き歴史を誇る六連にこそ信頼と希望が寄せられるのです。それについて特記したいのは、昨年以來甲南グリーが、大幅な増員を遂行したことです。これによって六連は、正に均衡のとれた整調が実現したわけです。

さて本年度の演奏をプログラムによって一覧すると、

全日本合唱連盟理事長 **石 井 歓**

関西の合唱には、独特なヒビキがある。それは、伝統的なもので、各団体それぞれに特徴をもっているが、その根底にある〈合唱の響き〉には共通したものがある。それは、関西人の気質の柔らかさか。剛直さか。優しさか。それはまさしく、他地区の者にとっては、魅力的なものであることは間違いない。

関西合唱連盟理事長 **日下部吉彦**  
音楽評論家

野球、とは、ひと味違う路線を

野球の《関西六大学リーグ》は、昨年、分裂して、その主流派は《関西学生野球リーグ》という、わかったような、わからないような名称に変わりましたが、こちら合唱の主流派は、伝統の《関西六連》の名のもとに、ますます隆盛の道をたどりつつあることは、なんともうれしい限りです。野球と同じく、関西私学の雄《関・関・同・立》を中心に、関西の学生合唱を代表する各校が集っていることも立派ですが、ただ、われわれだけが、最高水準、だと錯覚しないように、それだけは、十分に自戒して下さい。賢明な諸君ですから、そのような誤りを犯すことは、あるまいとは思いますが、伝統にあぐらをかくことのないように。野球の分裂劇も、そういった過信と、無関係ではないと思います。

さて今年も、実に楽しい曲目が並びました。多田武彦先生の新曲初演（関大）をはじめ、確か関学グリーが初

先ず、邦人の新作品が半ばを占め、それに次いで南北アメリカの歌曲と更にはブラームスが並んでいるのです。何れもそれぞれの演奏意欲に耳を傾けることが出来るのです。

それに加えて注目したいのは、最後のステージを飾るに最もふさわしいのは、客演に招かれた関屋氏指揮による石井歓作曲の“枯木と太陽の歌”のことです。この曲は、昭和31年の作曲ですが、当時以来、清水氏の“秋のピエロ”などと共に愛唱されていたのですが、曲の謡っている粗野にして、かつ感傷的な思いが、今にして思えば余程の大合唱団でなければ、その野生的な大自然への訴えが表現出来なかったのではなからうか、などと考えめぐらすのです。

今宵このステージを埋めつくす300に余る関西六連の大合唱に多くの期待を寄せる所以(わけ)です。

関西六大学はその中心をなす存在である。例年、すばらしい合唱を提供してくれている。

今年は、合同曲として〈枯木と太陽の歌〉を歌ってくれる由である。大変に光栄に思っている。

六大学の若い人びとと、関屋晋さんの卓越した音楽性は、素晴らしい〈音楽〉を聴衆に提供してくれることでありましょう。

楽しみである。

演した堀悦子さんの作品（立命館）、いま、最も人気のある作曲家のひとり萩原英彦の珍しい作品（阪大）と、邦人作品にもバラエティがあるのに加えて、あちらの曲では、これも名編曲男声版として定評のあるアーン歌曲集（甲南）と、遂に出ましたブラームスの四重唱曲の男声版（同志社）、それに、これは十八番のシー・シャンティー（関学）という具合に、なかなかのラインナップです。

そして、トリは、この人しかいないといってもいい関屋晋先生の指揮による合同曲《枯木と太陽の歌》ときては、男声合唱ファンならずとも、思わずタメ息の出そうなプログラムです。

来年は、10周年とのこと。今年は、プレ・メモリアルとして、楽しい演奏会になることを期待しています。

兵庫県合唱連盟会長 **中 村 仁 策**

正六面体にも似たこの六大学合唱演奏会、各大学夫々毅然として美しい正方形を保ちつつ男声合唱を通じてお互いに固く結ばれている。合唱の交歓と云うより、キャンパスの交流と云うべきか。そして合同演奏はこれ又六つの大学が過去必ず大きく取上げた「枯木と太陽の歌」。関屋晋も学生時代から何十回となくこの曲で指揮台に立ったことだろう。

作曲者石井歓は作曲家であると同時にピアニストでもある。ティンパニーの連打ではじまるブラームスのシン

京都府合唱連盟理事長 **吉 村 信 良**

六連に寄せる

この秋恒例の関西六大学合唱演奏会。わが京都から参加する同志社グリー、立命メンネルの諸君たちは、京都の合唱界の良きリーダーとして、合唱運動の礎づくりに大きな役割を果たしてくれている。阪大、関大の諸君は大阪で、関学、甲南の諸君は兵庫で、それぞれそういった活動の集大成の形でのシンポジウムであってほしい。間違ってもエリート意識を吐露する閉鎖的な場であって

東京六大学合唱連盟

本日今宵、第9回関西六大学合唱連盟演奏会が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

「今年の関西六連、演奏曲目は何か？」と気になる季節が、今年もやってまいりました。同じ世代の若者が音楽をどのように感じ、どのように表現するのだろうか。その思いが私たち東の人間の心をもとらえるのでしょうか。

否、私たちの世代の人間だけでなく、次代をになう若者（少々うがった考え方ですが）が、どのような音楽をしようとしているのかは、音楽を愛する者ならば誰もが注目しているにちがいありません。ましてやそれが関西六連とあれば、なおさらでしょう。

聞けば今年の合同ステージは、関屋先生の指揮で石井先生の「枯木と太陽の歌」だとか。おなじみの曲であるだけに、皆様がそこからどのような「新しい美」を発掘なさるか、非常に楽しみです。

フォニーを思わす様な発想、男っぽい力とロマンを数百人の大合唱は正にこの大ホールを大きく揺るがすことだろう。

来年は第10回、どんな企画がうちたてられるか今から注目し、期待しているのは私だけではない、関西、いや日本の合唱界の最大の関心を集めることだろう。プレ第10回の意味を含めて今宵は終始一貫力強い演奏をされることを心より期待しております。

ほしくないし、無意味な競い合いなどがその音楽にあらわれるものであってはなるまい。他大学の演奏からすべてを学んでほしいし、ことしは合同に関屋晋先生をお招きするようだから、この大先生からは思い切りのよい絞り取りを写してほしいものだ。

ことしも関西合唱連盟の大きな催しと重なったため拝聴できないのが残念だ。ご盛會を心よりお祈りする。

しかしながら、やはり箱根の山は険しく大井川の流れは急で、しかも国鉄運賃は高騰の折、私たち、東京六連のメンバーの多くが、「ぜひ関西六連の演奏を聴きたい」と思っはいても、実際にそのような幸運に恵まれるのはごく一部にすぎません。それだからこそ私たちの目が、耳が、西の方に向けられるのかもしれない。

しかし、たとえ東西に分かれていようと、同じ合唱を、それも男声合唱を志す者同志として、いつまでも私たちに刺激を与えてくれるよきライバルとしての関西六連であってほしい、また皆様にそのように思っただけのような私たちでありたいと、常に願っております。西に関西六連あり、東に東京六連ありと言われるような両連盟を目指して、互いに切磋琢磨していこうではありませんか。

最後になりましたが、今宵の演奏会の成功と、貴連盟の一層の御発展をお祈り申し上げます。



■エール交歓

関西大学グリークラブ  
立命館大学メンネルコール  
甲南大学グリークラブ  
大阪大学男声合唱団  
同志社グリークラブ  
関西学院グリークラブ

—— 第 1 部 ——

■関西大学グリークラブ

男声合唱組曲「水墨集」——昭和57年度委嘱作品——

- I. 露
- II. 山寺の初秋
- III. 祭
- IV. 終日風あり
- V. 鯰の来る頃
- VI. 時雨
- VII. 芦雁
- VIII. 渡り鳥

作曲 多田武彦  
作詩 北原白秋  
指揮 林伸二郎

■立命館大学メンネルコール

男声合唱組曲「隠岐四景」

- I. 伊三郎節
- II. 白髪哀歌
- III. 牛突き唄
- IV. さかな

作曲 堀悦子  
作詩 岡本おさみ  
指揮 片桐清実

■甲南大学グリークラブ

「アーン歌曲集」より

1. Infidelite (つれない人)
2. D'Une Prison (牢獄から)
3. Si mes vers avaient des ailes (私の歌に翼があったなら)
4. Quand je fus pris au Pavillon (私がとりこになった時)
5. Paysage (風景)
6. Mai (五月)

作曲 Reynaldo Hahn  
編曲 保延裕史  
北村協一  
指揮 西尾健司  
伴奏 森本恵子

—— Intermission ——

—— 第 2 部 ——

■大阪大学男声合唱団

「男声合唱のための祝歌・悲歌・恋歌」

1. 祝春歌
2. 悲歌
3. プシュケ

作曲 萩原英彦  
作詩 松田幸雄  
指揮 坂田裕二

■同志社グリークラブ

ZIGEUNERLIEDER Op. 103 (ジプシーの歌)

- Nr. 1 He, Zigeuner, greife in die Saiten
- Nr. 2 Hochgetürmte Rima-flut
- Nr. 3 Wißt ihr, wann mein Kindchen
- Nr. 4 Lieber Gott, du weißt
- Nr. 5 Brauner Bursche führt zum Tanze
- Nr. 6 Röslein dreie in der Reihe
- Nr. 7 Kommt dir monchmal in den Sinn
- Nr. 8 Rote Abendwolken ziehn

作曲 Johannes Brahms  
指揮 楠敏也  
独唱 西山勲  
鈴木典夫  
伴奏 長田育忠

■関西学院グリークラブ

「Sea Shanty」より

1. Swansea Town
2. Homeward Bound
3. I've got Six Pence
4. Rolling Home
5. The Drummer And The Cook

指揮 坂口和彦

—— 第 3 部 ——

■合同演奏

男声合唱組曲「枯木と太陽の歌」

1. 枯木は独りで唱う
2. 花と太陽の会話
3. 冬の夜の木枯しの合唱
4. 枯木は太陽に祈る

作詩 中田浩一郎  
作曲 石井 歓  
指揮 関屋 晋  
伴奏 山本 篤子





# チヨース!

昭和24年5月、関大ルネッサンス提唱の中で、千里山にそのうぶ声をあげた関西大学グリークラブは、当初10数名であった部員も、現在では約100名を擁する団となりましたが、今日まで幾代にも及ぶ若者たちが、合唱音楽に対する情熱とチームワークによって歌い継いで参りました。そして、数々の足跡のもとに育まれた伝統の重みと責任を感じながら、4月には、20数名の新入部員を迎え、新たなスタートを切りました。

今年のグリーライフは、春の福岡演奏会を皮切りに、法政大学アリオンコールとの交歓演奏会、ジョイコンサートの出演、又去る7月14日には、昨年に続いて田中信昭先生の指揮で東京混声合唱団と共演する好運な機会に恵まれ、我々に新しい劇場空間を拓く芽を植え付けていただきました。その他に、放送界への進出、ソフトボール大会、合ハイ、コンパ等、意欲的な活動を行ない大変充実しています。

さて、六連の中であって、“パンカラ精神”を残しているのが関大グリーでありましょう。新歓合宿や夏合宿

の洗礼式を始め、演芸大会や追いかけの壮絶なる儀式、六連運動会でのひたむきさは、練習と遊びのけじめをつけた上で、事の大小にかかわらず前向きに取り組む姿勢を象徴するものであります。そして、関西大学の学生であることの自覚のもとに、「関大グリーメンは学生の模範であれ」というのが関大グリーのモットーなのです。

時代の推移に伴い各グリーメンの意識は徐々に変化していますが、その根底で歌を愛するという強い絆で結ばれた男達が、今宵歌い上げる「水墨集」が皆様の心にわずかながらでも感動を呼び起こせばこんな嬉しいことはありません。

最後に委嘱の執筆、並びに六連演奏会に向けて御指導頂きました多田武彦先生には敬意を表するとともに、今後も横田浩和先生、坂口尚平先生等の諸先生の御指導のもとに、部員一同、より一層の飛躍をとげるべく、努力を重ねてゆくつもりでございます。

ゴッツアンでした。

## 指揮者 林 伸二郎

1959年 京都に生まれる。関西大学文学部入学と同時にグリークラブに入部し現在に至る。高校時代から指揮棒をふっていた優れた音楽性と逆境にもくじけないバイタリティーには、我々グリーメン一同、全幅の信頼をおいています。品行方正とおたべスマイルが彼の武器。趣味は落語。特に桂米朝の大ファンとか。今宵は、そんな彼が創り出す音楽を心ゆくまでお楽しみ下さい。



## 男声合唱組曲「水墨集」

関西大学グリークラブは、ここ数年、急速に実力をつけて来た。特に専門の先生がたの力を借りることなく、その年の学生指揮者やパートリーダーやメンバーが、よく勉強し、努力し、力を合わせて合唱に打ち込んで来た賜物と謂えよう。トップ・テノールの高音域での発声には、やや持続性に欠けるという難点は残っているものの、各パート内のピッチがよく合っているし、同時に、合唱での色彩ともいべきハーモニーもよく合っていて、聴いていて、安心出来る。

こうした実力のついて来た関大グリーから一昨年新曲を委嘱された。北原白秋の「柳河風俗詩」のような日本的抒情性に満ちたものを作ってほしいという。

男声合唱のモノトーンの墨絵のような美しさをかもし出すものとして、以前から白秋の「水墨集」の作曲を考えていたので、これに決めた。

大正7年、雑誌「赤い鳥」の発刊以来、白秋は新童謡の創作に専念する傍ら、小説や新民謡の創作にも注力し、詩作から少し遠ざかっていた。同10月10日、かの有名な「落葉松」数章を中心とした詩作に戻った頃作られたものの多くが詩集「水墨集」にまとめられ、大正12年6月に刊行された。

組曲「水墨集」は、このうちの8つの詩を選び、作曲したが、30才台後半の白秋の、充実した詩風が感じられ、久しぶりに処女作「柳河風俗詩」を作ったときのような気分で、仕事が出来た。

こうした機会をつくってくれた関西大学グリークラブの諸君にお礼を申し上げるとともに、モノトーンの深い音のひろがり心から期待する。

多田 武彦

### I. 露

墨を磨り、  
墨を磨り、  
閑かに心を澄しながら、わたしは  
竹の根方の水引草をながめてゐる。  
あの紅い点点の花、  
その点点の一つに  
露が一つ、  
光って、揺れる、  
いい朝。

### II. 山寺の初秋

かやの葉のさ青さ、  
この繁みの木ぶかき、  
さても、ここから透かし見る  
御燈明のすずしさ。

雨とふる残暑の  
つくつくほふしよ、  
日ざしは墓石の角から  
すでに芙蓉の苔へ移った。

ひそやかな、それでも  
深い悲しみとて無い秋、  
山のお寺は農家めいても  
さすがに湿ったいい薫だ

あ、女の子が出て来た、  
お化粧をして、澄まして。  
また葬ひでも待つのか。  
おしろい花でも摘むのか。

### III. 祭

遠い何処かで祭ちゃさうな。  
おお、坊やよ、

どこか、月夜の囃子ちゃさうな、よ、  
わかいむすめの、ヤレ、宵祭。

遠い何処かで祭ちゃさうな。  
おお、坊やよ、  
いまにおまへの祭も来ましょ、よ。  
せめてそれでも、ヤレ、待ちましょか。

遠い何処で祭ちゃさうな。  
おお、坊やよ、  
わたしやお父さん、昨日の祭、よ。  
遠いお笛の、ヤレ、影祭。

### IV. 終日風あり

枯れがれの吹かれどほしの意気  
耀きながらに音を立つるよ。  
わたしも見ながらひとり通るよ。  
枯れがれの吹かれどほしの意気  
耀きながらに音を立つるよ。

### V. 鯉の来る頃

寒うなります。  
日も白く、小さく、  
しだいに遠くへ離れます。  
すると、いつかしら雪雲が出て、  
西から巽へかぶさります。  
ああ、せめては水平線にだけでも  
青い、すこしの空でも  
残してくれば有り難いが  
あちらも何だか時化てるやうです。  
藍鼠に。  
——お爺さん、舟を出しますか。  
——出すには出さうがの。  
魚はみんな沈んで了った。  
何にしても、今夜あたりは、

全うろこの鯉でも来さうな沖だよ。  
漁火をぼうっと燃すんだな。

### VI. 時雨

時雨は水墨のかをりをがする。  
燻んだ浮世絵の裏、  
金梨地の漆器の気品もする。  
わたしの感傷は 時雨に追はれてゆく  
遠い晩景の渡り鳥であるか、  
つねに朝から透明な青空をのぞみながら、  
どこへ落ちてもあまりに寒い雲の明りである。  
時にはちりぢりに乱れつつも、  
いつのまにやら時雨の薄墨ににじんで了ふ。

### VII. 芦雁

州のはなの吹きさらしに影して  
かれらは四五羽の芦雁であった。  
かれらは嘗てゐた、たまさかの陽の明りを、  
つくづく眺めてゐた。遙かな雲ぎれの青みを、  
時雨がうしろにはそく残ってゐた。  
かれらはそれにも心をひかれてゐた。  
かれらは四五羽の芦雁であった。  
大きな、けれども白い月の出を待つ  
寒い四五羽の芦雁であった。  
満汐どきの、時をり啼きかはす芦雁であった。

### VIII. 渡り鳥

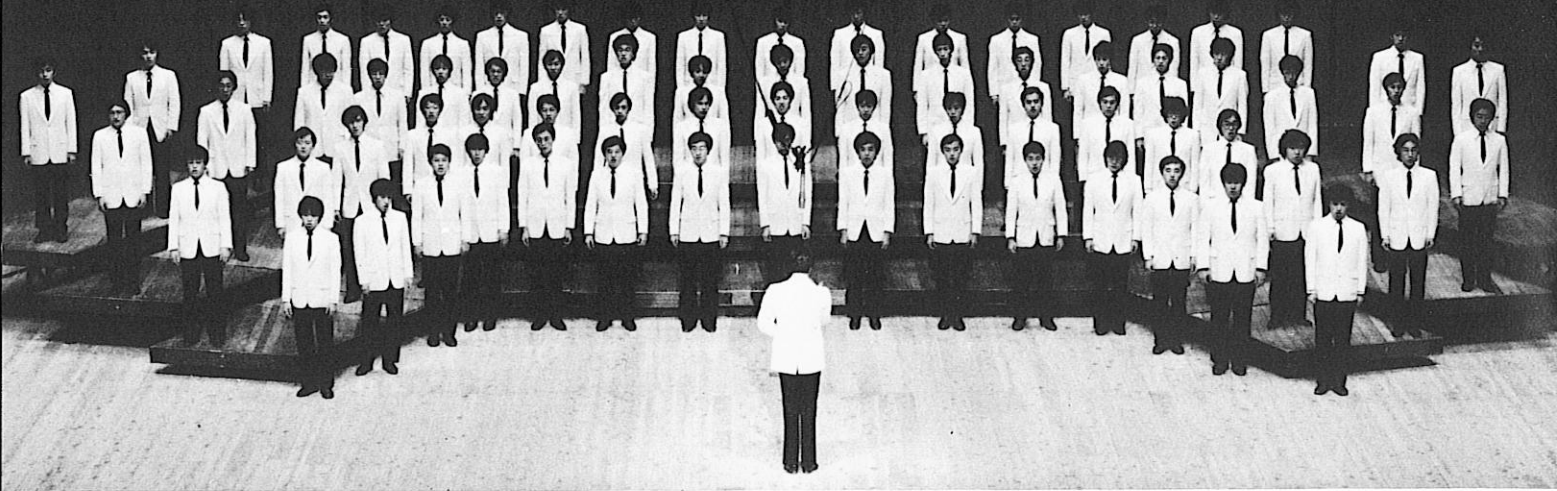
あの影は 渡り鳥  
あの耀きは雪、  
遠ければ遠いほど空は青うて、  
高ければ高いほど脈立つ山よ、  
ああ、乗鞍岳、  
あの影は 渡り鳥。





# 立命館大学メンネルコール

Raimon Choir



ちわっ!

我々が立命館大学メンネルコールです。今年で36年目を迎える働き盛りの合唱団です。一年間の活動としては、数々の演奏会・合宿・六連や京都府合唱連盟における運動会などの行事への参加・合ハイなど、その他諸々のことを行なっております。

さて、六連に加盟している合唱団の共通点とは何でしょうか。それはあたりまえのことですが、男しかない、ということです。男と女は互いに引き合う、という古今東西を通しての法則を無視してなぜ、男だけが数百人も集らねばならないのでしょうか。しかし、理屈抜きにして男だけでほんとうに良かったと思うことがあります。

共通点があると同時に、六つの団には各々の特徴があります。我々の団に関していえば、次のようなことがあります。まず合唱について言えば、ドイツロマン派の音楽を常に目指し、浦山弘三先生を音楽顧問としてお迎えしております。団風としては、最低限度の、一部ではか

なり封建的な上下の秩序を保持し、規律を重んじ、立命館大学の教学理念である「平和と民主主義」を尊重しつつ、日々の活動を行っているということに特徴があります。また、それほどアクが強いわけではないが突如として尋常ではないことをしでかす、という評判も得ております。身内の話で恐縮なのですが、この噂に関したことは毎年の六連運動会のラブアタック第二部に少なからず象徴されているようです。団員をみてみましても、飛び抜けた芸人がそう何人もいるわけではありませんが、根暗人間や悪人・生真面目人間もいません。学内においては「万人を受け入れる規律正しいサークル」として高い評価を受けています。

全体的にみれば、地方出身者がほとんどということで素朴な人間が多いようです。今宵、この男たちが農協青年の意地にかけて歌う「隠岐四景」。かすかにでも波の音を感じていただければ幸いです。

したっ!



指揮者 片桐 清実

「北海道に生まれ育ち、魂の飛翔を求めて、今京都。未知なるものへの憧れと、去りしものへの穏やかな想いが私の心をよぎる。熱く燃える血潮と曇りない瞳で生命もつ音楽を目指し、酒と女をこよなく愛す。」

以上のような自己紹介を平気で書くことのできる彼の、ジェット機の逆噴射のごとき指揮にどうぞ注目下さい。

名門私立函館ラ・サール高等学校出身。指揮法を伊吹新一氏に師事。

## 男声合唱組曲「隠岐四景」

ここに歌われる隠岐は、現代人が心のどこかに持っている永遠の故郷ではないだろうか。美しい隠岐の自然と人々の様々な情感を通して普遍的な心象を表している。そこに住む人々は我々自身であり、そこには目をつむると鮮やかに浮びあがる風景がある。生活の苦しみ、悲しみ、また喜びが、それら自体極めて日常的で生々しいものであるが故、生きたまま受け入れられる。四つの詩に一貫して流れる日々の慰さめ、オブティミスティックな悲しみは日本人すべてがもつもので、最後には宗教的感情となって歌われる。また、能、民謡を取り入れた表現により一層のイメージの広がりを許し、ひとつの象徴的な世界を表出しているのである。

一曲目は、伊三郎という老漁師の生き様が楽天的な明るさで描かれる。後継ぎのないさみしさとか、単なる懐古趣味など、余計な感傷を排したきびしい生き方である。力強いかけ声や波の音など、気合いとともに歌い上げたい。

二曲目に歌われるのは老婆への歌である。海に囲まれた隠岐、生活と感情が海と切り離せないというより、すべてが海とひとつである老婆は、その哀しみも海にしか慰めを見出すことができない。自分の白くなってしまった髪のアわれさとも、海だけがわかってくれるのだ。

三曲目は、年に一度の祭りで、日常の単調を破って行なわれる闘牛の光景である。その牛の熱気や牛の飛び散る汗は、島中の人々の喜びである。

四曲目は、さかなたちへの鎮魂歌として歌われる。それは同時に生あるものの浮遊した魂への祈りである。人々の生活や感情もすべて昇華されて、静かに、永遠だけが残る。

### I. 伊三郎節

八幡伊三郎 鮑鉤  
右手に鮑鉤 左手に箱メガネ  
おなご竹に鉤をつけ  
鮑獲らせりゃ日本一  
えんやな えんやな  
えんやな えんやな

八幡伊三郎 八十五  
裸足さらして ゴム草履  
三つの時から海に出て  
冬の海でも舟を漕ぐ  
えんやな えんやな  
えんやな えんやな

八幡伊三郎 度胸も強い  
小舟漕ぎ出し竹島渡り  
トドを追いかけて 鮑を獲った  
一日百貫鮑を獲った

八幡伊三郎 鮑鉤  
後継ぐものない名人芸  
伊三郎来たぞとカモメが告げる  
鮑あわてて身をかくす  
えんやな えんやな  
えんやな えんやな

II. 白髪哀歌  
暗い夜の海に狐り  
漁火見ているこのあわれさよ  
だれにもわかるまい  
わかるまい

イカ釣り船 海にのまれ  
いとしい夫は死んでしまった  
あれから二十年  
もう二十年

子供み思い出す  
ひとり息子 あの戦争にとられ

髪の一毛一本  
かえらなかつた

悲しみを知っているのは  
この白い髪ばかり

夫が死に息子死に  
生きている慰めといえは  
蒼く波打つ  
この海ばかり

岩についた海苔をばさ  
味噌汁に浮かべ麦飯食う  
晩飯すますと  
海辺に座る

隠岐の島は海の幸  
誰もがそう言っているけれど  
老いた私には  
食うすべもない

悲しみを知っているのは  
この白い髪ばかり  
悲しみを知っているのは  
この白い髪ばかり

### III. 牛突き唄

えっさ えっさ えっさ えっさ  
突けや 突け 突けや 突け  
えっさ えっさ えっさ えっさ  
これに勝ったら幕内なるぞ  
苦勞の甲斐の幕内なるぞ  
突けや 突け 突けや 突け

えっさ えっさ えっさ えっさ  
突けや 突け 突けや 突け  
えっさ えっさ えっさ えっさ  
これに勝ったら小結なるぞ  
化粧まわしに光がさすぞ  
突けや 突け 突けや 突け

えっさ えっさ えっさ えっさ  
これに勝ったら関脇 大関なるぞ  
相手は名代の力牛  
神も仏もみな後おすぞ  
突けや 突け 突けや 突け

えっさ えっさ えっさ えっさ  
突けや 突け 突けや 突け  
これに勝ったら 横綱なるぞ  
隠岐一番の名譽になるぞ  
突けや 突け 突けや 突け

えっさ やあ えっさ  
えっさ やあ えっさ  
えっさ えっさ えっさ えっさ  
突けや 突け 突けや 突け

### IV. さかな

さかな さかな  
かえって おくれ  
さかな さかな  
かえって おくれ  
魂だけは  
かえって おくれ

おいらは漁師  
おまえはさかな  
おまえとらなきや  
生きてはゆけん

まっ赤な夕焼け  
落ちてく海へ  
さかな さかな  
かえって おくれ  
魂だけは  
かえって おくれ

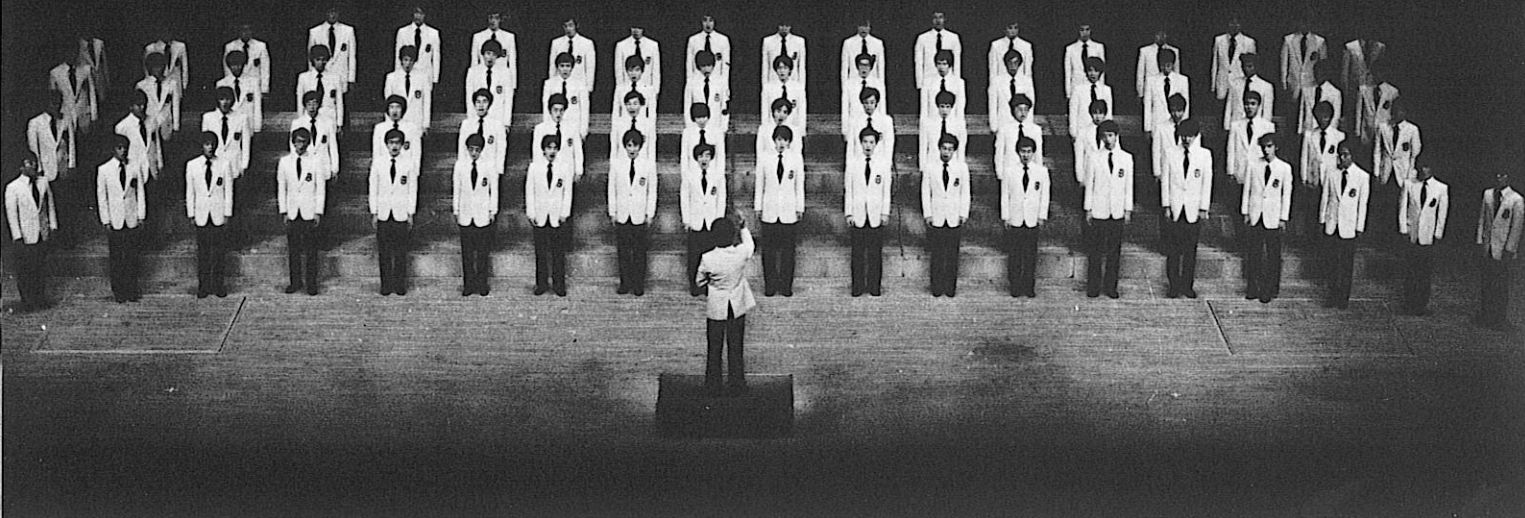
【NB】I曲め最初に出てくるTop Tenorの言葉（イヨ サアラ ハア ヤエ イエー）は、作曲者がつけ加えたものです。





# 甲南大学グリークラブ

KWANSEI GAKUIN  
GLEE CLUB



六甲山の南の麓に位置する甲南大学は、山と海とを擁し、学生数七千と総合大学としては少な目ですが、自然環境に恵まれたことと小じんまりまとまった点において特徴があるかと思われます。

さて、甲南グリーは、その一画に大学創立当初より地を占め昨年には創部30周年を迎えることも出来ました。また、今年は定期的なステージ以外に7月12日に京大男声合唱団と九州大学コールアカデミーとのジョイントコンサートを開催し、12月3日に予定されている大学創立30周年演奏会にも参加し、新たな足跡をつけ加えることになっております。この様に、毎年メンバーが代わりながらも学生アマチュア合唱団として、受け継ぎ、付け加える年輪とアマチュアならではの挑戦的精神を、甲南グリーで歌って来たどの時代の者でも感じてまいったことと思います。

今宵、皆様におとどけするアーン歌曲集は近年の傾向

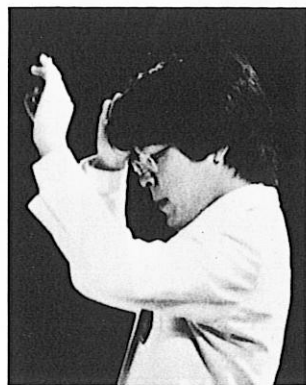
である、古典派・ロマン派路線から逸脱しないよう挑戦的精神を燃やし、近頃では手をつけたことのないフランス語の曲をやろうということで選曲しました。皆様には、そういう面と、関西六連において大所帯の五大学の演奏スタイルとは違った面とを楽しんでいただきたいと思います。

このフェスティバルホールにはじめて立つ一回生、責任感も具わり活力あふれる二回生、アダルト感覚でせまるのだといいながらじじ臭くなった三回生、就職はバッチリきまりました？四回生と、それぞれ立場はちがいますが、このステージにかける意気込みは同じです。甲南グリーメン一丸となってアーン歌曲集を通じて皆様方の心に何か感じるものを生み出すことが出来ればこんな嬉しいことはありません。

最後になりましたが、今後共一層皆様の御指導、御批判を賜りますようお願い申し上げます。

## 指揮者 西尾 健司

本音を下宿にかくし、つかのまの建て前が部員を指揮する偽りの世界。夏には上半身をあらわにして、大きなビールばらをお出しになって、コンダクター自ら部員にわずかに残された練習意欲をうばい去るのです。強化合宿中もアンサンブル練習が終わると「温泉町」へ駆け込む始末。そのへんがユニークさとして受けるのは氏の人徳ね。不必要な表現を削ったシャープな曲づくりと、自然で心地良い指揮には脱帽。甲南グリーの孤高のカバさん、頼りにしてるよん。私立、天理高校卒。現在、理学部応用物理学科3回生。



## 伴奏者 森本 恵子

大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを永井譲、清水淳彦の諸氏に師事。大学入学後は、混声合唱部に所属し伴奏神戸中央合唱団にも入団し、伴奏する。現在、「大阪音楽大学助手」、神戸中央合唱団所属、女声合唱団ミルヴォア専属ピアニスト。



## 「アーン歌曲集」より

レナルド・アーン (Reynaldo Hahn) は、1875年南米、ヴェネズエラのカラカスで生まれました。母親はスペイン系、父親はドイツ系の血筋をひく外交官で、レナルドは、12人兄弟の末子でした。彼が3才の時、一家はパリに移り、彼はその後一生を、パリで送ることになります。彼の生まれた年には、モーリス・ラベルが生まれており、パリ音楽院では、ラベルや名ピアニストのアルフレッド・コルトーなどと同じクラスだったということです。作曲はマスネにつき、たいへんかわいがられました。マスネのおともでパリのサロンにも出入りし、10才半ばで天才少年として、たいへんな評判をとっていました。彼の歌曲も10代で作曲されたものが多く、彼の天才ぶりがうかがわれます。彼は、1947年に81才で亡くなりましたが、指揮者や、批評家としても活躍し、晩年にはパリ・オペラ座の総監督も務めています。作曲も数多くしていましたが、現在では若い頃の、繊細で優美な歌曲が、取り上げられる他では、あまり演奏される機会がないようです。

本日演奏致しますのは、彼の10代で作曲した作品を中心に6曲が選ばれています。3曲目の「わたしの歌に翼があったなら」は、歌曲の好きな方なら、耳にされた方もあると思います。これは彼の13才の時の作品で、彼の純粋な、恋愛へのあこがれがうかがわれます。その他、恋の詩が多いのですが、それが美しいメロディーとともに、聞く人の心を洗うような想いをいだかせます。

尚、この曲を演奏するにあたって、快く譜面を譲って下さった立教大学グリークラブ、並びにOBの方々に厚く御礼申し上げます。

### 1. つれない人

THEOPHILE GAUTIER 詩

楡の木が小道で  
影を揺らしている。  
おやここには若い野バラ。  
静けさの眠る森。  
夕暮れ時、  
この石のベンチで  
ひと休みするのが好きだったね。  
黒檀とリラの花が  
香りのよい天蓋をつくっている。  
疲れた時、二人して  
この花の鎖の下で  
体のほてりをさましたっけね。  
澄んだ空気、やわらかい芝生。  
何も変わっていない……あなた以外は！

### 2. 牢獄から

PAUL VERLAINE 詩

空は屋根の上で  
とても青くて 静かだ。  
しゅろの木は屋根の上で  
その葉を ゆする。  
はるかに見える鐘が  
ゆっくりと鳴っている。  
鳥たちが木にとまって  
嘆きの歌を歌っている。  
おお、人生はこんなにも単純で穏やかなのに！  
街から平和なざわめきが聞える……  
泣いてばかりいて一体どうしたというのだい？  
言ってごらん！おまえの青春をどうしてしまったのだい？

### 3. 私の歌に翼があったなら

VICTOR HUGO 詩

甘く かけそく 私の歌は  
あなたの美しい庭の方へ  
翔んでゆくでしょう。  
もしも翼があったなら  
小鳥のように！  
私の歌は きらめきながら  
舞い上がるでしょう。  
あなたの楽しげな家の方へと  
もしも翼があったなら  
精霊のように！  
汚れなく、いつまでも 私の歌は  
あなたの方へと駆けてゆくでしょう。  
もしも翼があったなら  
愛のように！

### 4. 私がとりこになった時

CHARLES D'ORLEANS 詩

やさしく 美しい 御婦人の  
恋のとりこになった時  
私は ろうそくの火に燃え尽きました。

まるで蝶々のように。  
やさしく 美しい 御婦人の  
恋のとりこになった時  
私は朱に燃え尽きました。  
花火の赤い火のように。  
もしも私が鷹だったら、  
鷹の強い羽根があったなら  
私を針のように刺すお方から  
身を守ることも出来たでしょうに  
恋のとりこになった時。

### 5. 風景

ANDRE THEURIET 詩

海鳴りの聞えるブルターニュの海辺に  
私は秘密の場所を知っている。  
秋の日に君をそこに連れてゆけたなら  
いとしの君よ、どんなにいいだろう！  
かしの木に かこまれた泉  
あちこちにぶなの木立、うちすてられた水車が一軒。  
緑の澄んだわき水は  
君の人魚の瞳を映し出す。  
小鳥たちが、あかつきに、黄色の葉の下で  
僕たちのために歌ってくれるだろう。  
そして海は夜も昼も  
二人の交す抱擁に 伴奏をかなでてくれるだろう。  
底音の音で、果てることなく！

### 6. 五月

FRANÇOIS COPPEE 詩

もう1ヶ月になるね、遠くへ行ってしまった人よ、  
私の手のとどかない所に、あなたが行ってしまってから。  
リラの花は 咲いたけれど  
この苦しみは癒されることはない。  
一人離れて、私は美しく澄んだ空を避ける。  
その輝光は いたずらに心をさわがすのみ。  
新生のまばゆさは、  
流離の悲しみをいや増すだけ。  
太陽がほほえみかけようと、  
春を忌んで、私は扇を閉ざす。  
願わくば、ただひとえだの  
リラの花を 持ってきておくれ！  
魂こめた 私の愛は  
深い苦しみの中にも  
親しい花びらの中にあなたの瞳を  
香りの中に あなたの吐息を  
感じとれるだろうからね！

今回の演奏にあたって、上村邦子先生が心よく翻訳をお引き受け下さいました。部員一同心から感謝しております。





# 大阪大学男声合唱団

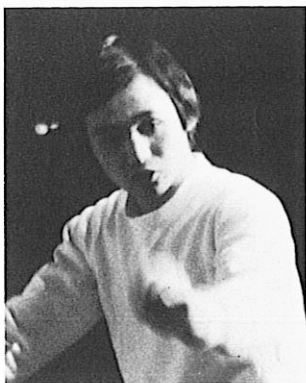


お早うございます。ネオン輝く十三で練習に励む阪大男声です。昨年12月27日で30周年を迎えた我団は、5月には朝比奈隆先生指揮による「アルト・ラブソディー」を大フィルの伴奏で歌わせていただく好運に恵まれ、6月には大阪四大学交歓演奏会、7月には横浜国立大学グリークラブと広島大学グリークラブを地元大阪に迎え国立三大学男声合唱旗上げ公演、と意欲的に活動して参りました。また、新入生勧誘では有望な新入団員を獲得、中には「納得のゆかない問題があるので1ヵ月後に戻ります」と欺異鈔の世界へ行ってしまった者などいましたが100名に近い大所帯に膨れ上がり我団も安定期を迎えたと言えます。団員数が増えたことにより春の合ハイ参加希望者の倍率が上り、めでたく参加を認められた者は「まじめな木こりがおりまして〜」とか「おじいさんが桃を切ると!」と大張り切り。そして血液型別星占いで都合のいいグループ分けが済むとディスコへ直行。帰りにウメチカで月自然の〜月と歌いアンコールの声を聞くや直ちに即興の演奏会。このように合ハイで培われた活力は

5月の六連運動会、7月の前期合宿で爆発するのです。運動会では圧倒的な強さをみせ過去5回のうち4回優勝で飾り“体力の阪大”の名を欲しいままにしている。また今年の前期合宿はジョイントを控えていた為、シビアな合宿を予想していたが、フトン蒸し、刺青、激写の犠牲者が続出。おまけに便所にねずみ花火を放り込むわ、人の頭を洗濯糊で固めるわ、BassとBar. がロケット花火で戦争をするわ、それは面白い合宿でした。

羽目をはずし乍らも一年の集大成である定演(1月10日フェス)に向け団員一丸となって取り組んでおります。第30回定期演奏会ではミュージカル(勿論踊ります)、オケ伴でシューマンのモテットなどバラエティーに富んだステージをお届けします。乞御期待!

さあ幕が上がります。我団が心をこめて歌いあげる「祝歌・悲歌・恋歌」、お客様の心を包みこむ様な演奏ができればよいのですが。では、しばし我団の歌声をお聴き下さい。



指揮者 坂田 裕二

文学部哲学科。フジカラープリントでもないのに非常に写真うつりがよく、演奏会に来た女性は彼を一目見ようとやって来るが、「ガッカリ!」という言葉が吐き捨てられ困惑する無実の人。だが、「カワイイ〜」と“動く着せかえ人形”を虎視眈眈と狙っている女性も多いと聞く。髪はザンギリ頭(まことちゃんカット)だが、時には髪をピンと立てたゲゲゲカットにきめてくる。服は専らOBのお下を身につけているが、先日、演奏会前に後輩から靴をもらい頭が上がらずSoliのオーディションで償ったとか。Soloをとるには毛布……。今宵フェスという大舞台において指揮をする。彼の魔法のタクトに魅了された貴女。決して楽屋に来てはなりませんぞ。

「シンデレラ男性編〜現代版〜」より

## 男声合唱のための「祝歌・悲歌・恋歌」

早稲田大学グリークラブ1977年度委嘱作品である。「祝春歌」は、詩想としては春の復活を祝う民俗的な心情を基底としながらそこに原始を憧れるエコロジック的要素を加味し、形としては祝歌として纏めたもの。「庭前に柏樹なく」は悟りに到っていないという意味で、『無門関』の趙州和尚のひねりである。流麗な速度感の中に、変幻するひびきのつらなりによって初春の淡い情感をうたい上げている。「悲歌」は、三好達治の傑作「春の岬」の鷗と「大阿蘇」の馬をアイロニカルに下敷にした、三好達治への挽歌というよりは、三好詩を賛え惜しむ詩といえる。非常に遅い曲想をもって、悲しみという人間の情感の翳りを素朴なひびきの上に表現しようとした。「プシュケ」は、エロスに愛された娘で靈魂の象徴であるプシュケを自然との交感を通して抱えた甘くない恋歌で、自我の目覚め、おとなへの成長、夢幻の愛など、多様の解釈が許されている。魂を意味する—ギリシャ神話に由来する—この表題によって描かれた情感…風の感触を、軽いリズムの上に、そして全曲の対比と、循環動機の復帰という楽曲統一の手法の上に綴り上げたものである。

なお、「祝春歌」と「プシュケ」は、松田幸雄氏の第二詩集〈中間点1966〜1975〉より、「悲歌」は、第一詩集〈詩集1947〜1965〉より選ばれたものである。因みに〈詩集1947〜1965〉は室生犀生賞を受賞している。

### I 祝春歌

七草にむかって  
ななめに手をさしのべ  
陽をあおく朝

どこかで土の匂いがする

いいことだ  
元にかえるを知ることは

気温はゼロに  
木は幹に  
水は地下に  
鳥は声に  
そして心は

心は山川をめぐる  
小庭にかえる

庭前に柏樹なく  
一年の計もまた元旦にない

ただ妻と酌む酒に  
未来がかすかにかおるのを  
感じるだけだ

幸あれ

### II 悲歌

真がなければ 形に重みはないでしょう  
水鳥は水に浮かんでいるばかり

意がなければ 言葉に翳はないでしょう  
野馬は草原に点景となるばかり

ああ 落花もて花綵を編み  
ぼくらの庭を過ぎりし客よ  
幸あれ

### III プシュケ

そよかぜが そうつと過ぎた  
蛇のぬけがらが はらりと落ちる  
そのような感触を ぼくの肌にくこして

ああ 風の言葉を ぼくは知らない  
魂のぬくもりを いとおしむだけだ

そのひとは きた  
みどりの炎のうねりのなかを  
ヤマユリの香りに 身をつつみ  
ボケの花の映えに 頬をほてらせ  
マツの花粉に まぶしく輝きながら

ぼくの花嫁 ぼくのきょうだい  
ぼくの全一となるべきもの  
歓びと恐れに 瞳をひらき  
ぼくは わななきながら待った  
やさしくのべてくる手を

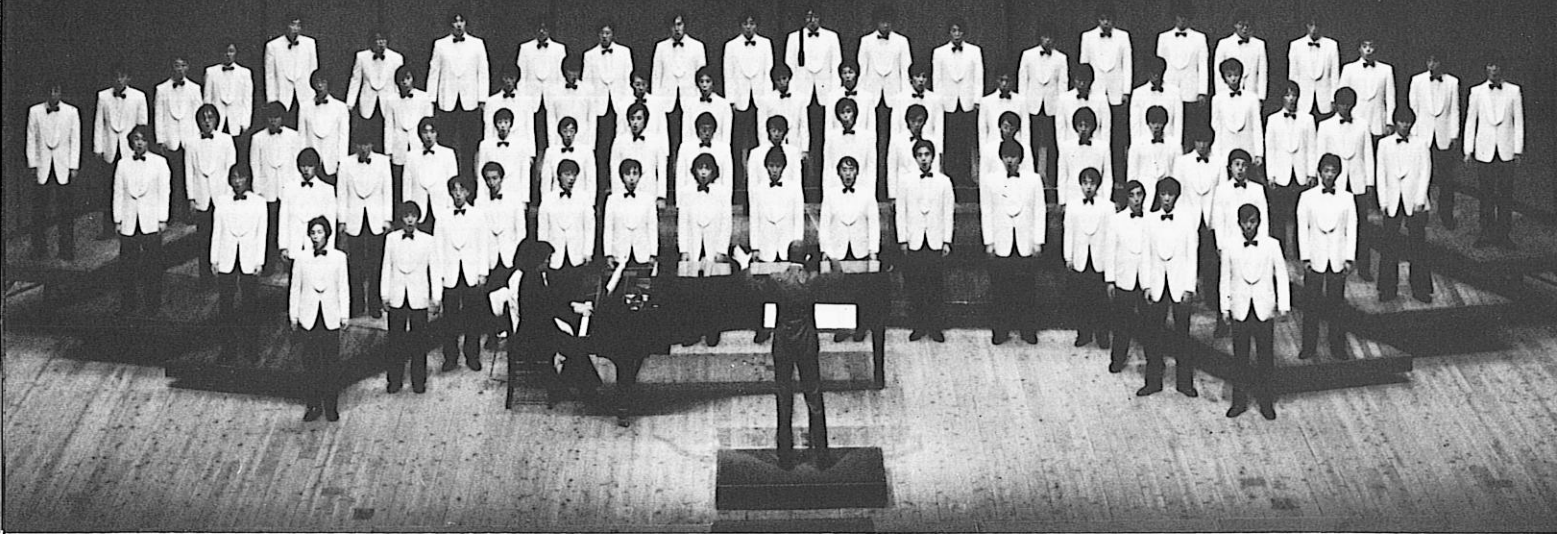
その手をとって ぼくは踊った  
葉末のかなでる音楽にあわせて  
踊って踊って ぼくは倒れた  
草汁と血のにじんだ素足のもとに  
そして 蛇のように からんで睡った

見覚めて ぼくはたずねた  
どこにいるの?  
血管が 鼓動でこたえた  
それからいくたびか 心に驟雨が訪ずれ  
草の蔓はのびて 実を結んだ

あの草の実 は だれのために色づいたの?  
風は なにを語ったの?

ああ オミナエシの花を髪に挿し  
ススキの花の舞う空に消えた  
ぼくの山の娘よ





歴史と学生の街、この古都京都に、同志社グリークラブが産声をあげて、今年で78年になります。名誉顧問であられましたが、この夏惜しくも逝かれた、故片桐哲先生により、同志社グリークラブと名付けられて以来、この長い伝統と、重厚なハーモニーを堅持し得たのは、時代が変わっても部員が持ち続けた音楽への情熱であり、また、いつも暖かく御支援を下さる皆様のおかげであると、心より感謝いたしております。

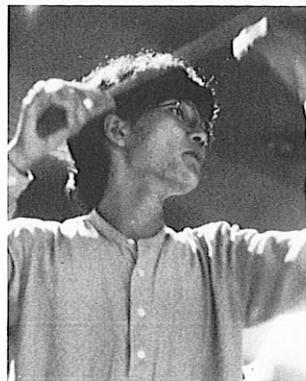
我々の一年のスケジュールは、前期の東西四連、後期の定期演奏会を中心に、同関演奏会、同立演奏会、メサイア、そしてこの関西六連と、積極的に演奏活動をつづけ、今年は、エール大学、ハーバード大学の両合唱団を京都に迎えて、音楽を通じて、親睦の輪を広げました。また今年は、創部以来初めて、定期演奏会を京都の地を離れて大阪で行い、来年にはヨーロッパ演奏旅行の予定など、我々には重荷かも知れませんが、同志社の、またグリークラブの名に恥じぬよう頑張りたいと思っております。

さて、大学入学後、自らの意志で入部するもの、ある

#### 指揮者 楠 敏也

1960年京都生。同志社中学、高校より合唱に親しみ、その間、指揮者としての経験を積む。大学入学と同時にグリークラブに入部、本年1月に第51代学生指揮者に就任。他に自らが結成した合唱団の指揮者をも務めるなど、多忙の身である。

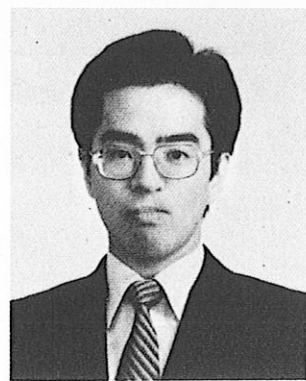
彼の豊かな西洋音楽の知識、それにタフネスを誇るべき体力、そしてあの京都弁まる出しのその放言で、クラブ内では特異な存在であるが、「くっすん」という別名で皆から親しまれている通り、一同全幅の信頼を寄せ、今後が期待されている。——本人より一言「皆たのむぞよ」



いは他人の意志で？ 入部させられたもの、とにかく4月の対面式に始まり、卒部式であるフェアウェルコンサートまでの4年間、各々の考え、各々の価値観を持った者のあつまりである故に、クラブでは様々な問題が起こります。悩み、思索し、疑問と解決を繰り返しながら、結局我々が感じることは、音楽の喜び、歌う楽しみであります。練習ははっきり言って甘いものではなく、いくら音楽への情熱と言ったところで、時には情性に陥り、時には暴走したりします。しかしその厳しい練習の後の、ステージでの一瞬の陶醉境、今までの全てを燃焼しつくそうとする部員の情熱、それらはステージと客席という場所を超え、皆様にも通じるものと信じております。そして、そこに「生きた音楽」が存在すると確信しています。今後も、福永陽一郎、富岡健、北村協一、大久保昭男諸先生の御指導のもとで、生きた音楽を求めて歌い続けてゆくつもりでございます。今宵、ほんの少しでも、皆様の心に残るような演奏ができましたら、グリーメン一同、この上もない喜びと存じます。

#### 伴奏者 長田 育忠

同志社大学法学部在学中。高校時代から合唱、独唱の伴奏、礼拝でのオルガニスト等をつとめる。ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一諸氏に、和声楽を島田和昭氏に師事。現在、大学や一般の合唱団で伴奏者として活躍中。また合唱用の編曲も多く手がけている。この夏の演奏旅行ではずっと同行していただき、12月の定期演奏会でも、伴奏をお願いしている。



## ZIGEUNERLIEDER Op. 103 (ジプシーの歌)

ヨハネス・ブラームス(1833ハンブルク～1897ウィーン)は、オペラを除くあらゆる分野の作品によって、リヒャルト・ワーグナーと共にドイツ・ロマン派の巨匠として現代においても最も親しまれている作曲家である。ブラームスの創作の骨格をなすものは、声楽作品であり、彼の創作活動の全般にわたって展開されている。そして、交響曲の分野でベートーベンの後継者としての地位を確立したのと同様に、声楽曲の分野でもシューベルトに続いて新しい領域を開拓したのである。また、ウィーン楽友協会合唱団の指揮者であったことから、合唱の機能についても深い造詣をもっており、すぐれた合唱曲を多く残している。

ロマン派の作曲家の多くがそうであったように、ブラームスもまたジプシーの音楽にすこぶる魅力を感じたようで、自分が取材したジプシー民謡をもとにして、オーケストラと四手のピアノのための「ハンガリー舞曲」を作曲したが、そのすぐれた出来映えのために、当時のハンガリー出身の音楽家たちに深い嫉妬をおこさせたほどであった。

「ジプシーの歌 作品103」はハンガリー民謡をその素材として1887年に作曲された。オリジナルな形は、混声四重唱とピアノのためのもので、全11曲であったが、出版社の依頼により8曲を抜粋してアルト独唱の曲として編曲され、現在ではこちらの方が有名になっている。全曲を通してジプシー音楽の特徴である2拍子がとられているが、どれひとつとして同じ2拍子ではなく、各曲のもつ性格によって様々な表情を造り出している。また、音楽家としてピアニストでスタートしたブラームスであるので、ピアノ・パートも当然充実していて、歌と一体化しつつも、独自の表情を持ちえているのである。

なお、今宵は1965年に福永陽一郎によって編曲された男声合唱版で演奏する。

#### Nr.1 おおジプシーよ、弦をかき鳴らせ

よう、ジプシー、かき鳴らしてくれ その弦を！  
移り気なあの女の唄を奏でてくれ！  
弦が泣き、歎き、悲しく不安におののくほどに、  
熱き涙がこの頬をぬらすまで激しく！

#### Nr.2 波立つリマの流れよ

波高きリマの潮よ、なぜにこうもどんより暗いのか。  
岸辺に立ち、私はあなたを求め  
声あげて歎く、わが愛しきひとよ！  
波去り 波寄せ さわめきつ岸辺の私に迫りくる。  
このリマの岸辺に私を引きとめ  
あなたを求めてとわに噎泣させたまえ！

#### Nr.3 御存知ですか

いつだか 御存知？ 愛しきひとの  
ひとときわまわしくなるそのときを？  
そは かの甘きくちもと  
はしゃぎ 笑い くちづけをするとき。  
可愛いひと きみは僕のもの、  
心からやさしくくちづけを僕は贈る。  
天がきみをつくりたまひしは  
ただ僕のためにのみ！  
いつだか 御存知？ 愛しきひとを  
ひとときわが好きになるそのときを？  
そは かのひとの腕に  
私を抱きしめてくれるとき。  
大事なかた あなたは私のもの、  
心からやさしくくちづけを贈ります。  
天があなたをつくりたまひしは  
ただ私のためにだけ！

#### Nr.4 神様あなたは知っておいで

神よ、あなたは知りましたもう、去りし日に我れ  
恋するかたにくちづけ贈りしこと 幾たび悔いしか。  
かのとき我が心 くちづけせよと命じたるも、  
命あるかぎり かの初めてのくちづけを憶いださん。  
神よ、あなたは知りましたもう、静けき夜に我れ  
歎びと悩みにまみれて 幾たびかのひとを想いしか。  
恋は甘く、いかに悔いは苦くとも  
哀れ心は永遠に永遠にかのひとのみを慕わん！

#### Nr.5 日焼けした若者が踊りに行く

日焼けした浅黒き若者、舞踏の相手に  
碧き瞳の美しきひとをいざないて、  
威勢よく拍車をかち合わせるや、  
チャールダーシュの調べ始まる。  
愛らしき小鳩にくちづけし そを抱きしめ、  
ぐるぐる回しリードして、歓声あげては跳びはねる。  
シンバルめかけ閃く銀貨を三枚も  
投げると 響きがさえわたる。

#### Nr.6 三つの赤いバラが

小さい薔薇三つ並んで真赤に咲いている、  
若者なら娘のところへ行くのが道理、止められぬ！  
神さま、そうしてならぬというのなら、この美しい  
広い世界も、とうのむかしに失せてるでしょう。  
独り暮らしなんて罪でしょう！  
アルフェルトではケチクメートが一番美しい町、  
着飾った綺麗な女の子がたくさんいるんだ！  
友よ、あの町で花嫁を探しだし、  
その手を求め、家庭を築き、  
飲みの盃を飲みほしたまえ。

#### Nr.7 聖なる誓い

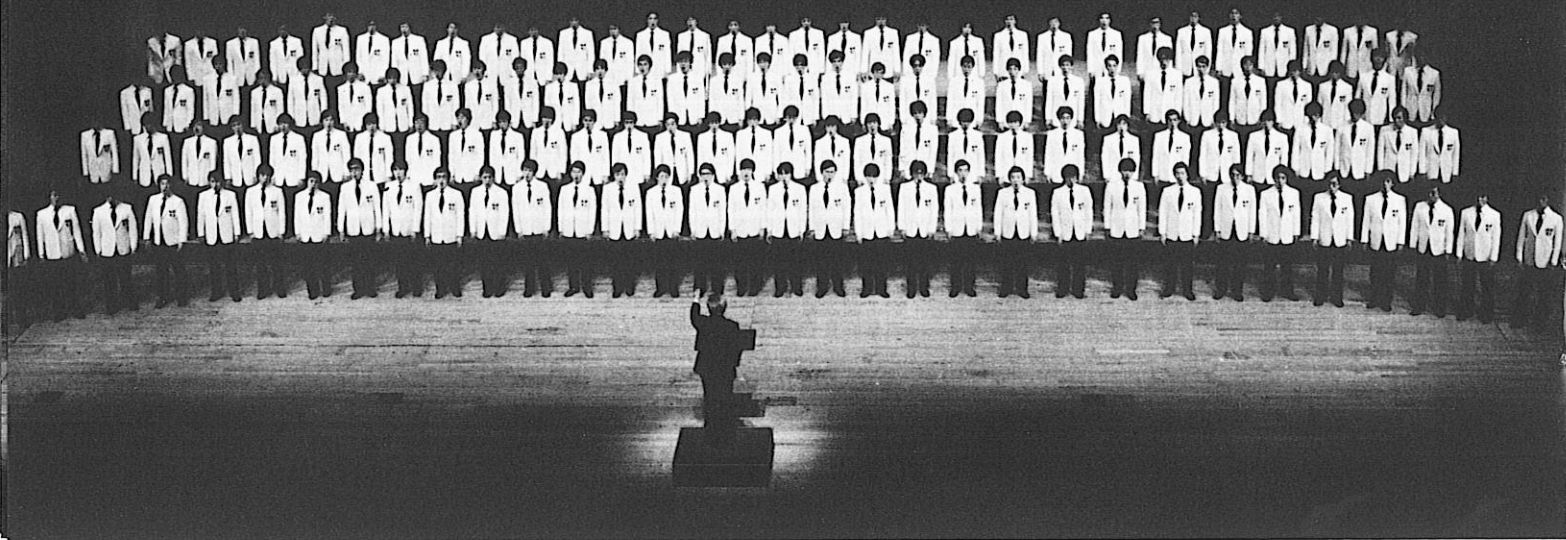
ときには憶いだしてくれるかい、愛しきひとよ、  
むかし聖き誓いをたてて約束してくれたこと？  
欺かないでくれ、棄てないでくれ、  
どれほど好きか知るまいが、  
愛しておくれ、このぼくのように。  
そうすりゃ神の恵みきみにもくるだろう！

#### Nr.8 赤い夕焼雲

赤い夕焼雲が天空を覆ってゆく、  
きみへの憧れほとばしり、  
恋人よ、我が心は燃えあがる。  
天は華麗に灼熱して光放ち、  
私は夜といわで日ごと夢みる、  
そはただひたすら  
我が愛らしき人の夢。

—「ハンガリーの歌」より、フーゴー・コンラート翻訳—





私達、関西学院グリークラブは、1899年（明治31年）に、日本最古の男声合唱団として神戸市郊外の新田の森に誕生しました。そして学院の恵まれた環境と宗教的雰囲気、内外の暖かい御指導、そして何よりも幾多の先輩方の努力によってはぐくまれてきました。以来83年間、山田耕筈氏を初めとして幾多の諸先輩を輩出し、様々な世界で活躍しております。

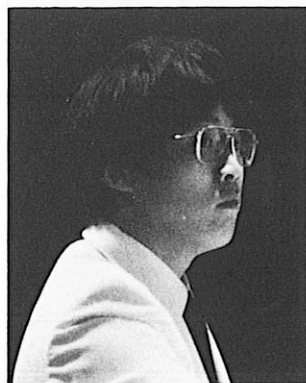
今年は30余名の新入生を迎え、メンバー総勢137名という大所帯になり、日本で最大の男声合唱団として、その活動範囲も年々広がってきています。春と夏の演奏旅行、夏と冬の合宿、毎年1月に催されるリサイタル、レコーディング、TV出演……etcと非常に忙しいスケジュールの中、昨年の夏は、7度目の海外遠征を果たし、ヨーロッパ各地に闊学の「グリー・トーン」を響かせました。3、4回生の心の中には、まだ昨年の思い出がはつきり残っています。そして、今年の夏は、演奏旅行の訪問先である。山形県の米沢市で、女子高生から物凄い声援（キャー〇〇さん）を受けたことが今も印象に残っています。そして気がつくともう10月、関西六大学合唱演奏会

の季節がやってきました。

私達、関西学院グリークラブは、今年、最終ステージであることから、指揮者を初め全メンバーはきって毎日の練習に取り組んでおります。今宵、30余名の新入部員と一緒に演奏いたします“Sea Shanty”は、最近の私達にとっては初めての演奏曲目なので緊張しています。

さて、今年の第51回、関西学院グリークラブリサイタルは、一昨年に続いて、東京の新宿文化センター大ホールにおいて開催される予定です。そして昨年に続いて、畑中良輔先生を客演指揮者としてお招きすることになっております。

私達、関西学院グリークラブは、今後、より一層輝かしい歴史の一ページを飾るべく厳しい練習に励んでゆく覚悟です。今後とも、私達関西学院グリークラブに対する皆様の遠慮のない御批判と、変らぬ御声援をお願い申し上げます。



指揮者 坂口和彦

昭和34年、豊中市に生まれる。府立北野高校コーラス部の指揮者として活躍。関西学院大学理学部に進学、グリークラブに入部。指揮法を北村協一氏に学び、第50回関西学院グリークラブリサイタルにて、デビューし、現在に至る。

## 「Sea Shanty」より

Sea Shanty (Sea Chanty) 海の男の歌は、オックスフォード辞典によれば、「水夫の歌、特に重労働の時に歌われる」というように説明されていますが、我が国の舟唄といったものとは違い、水夫の歌といった色彩が強いものです。

Shantyは、最初、船上での重労働の時に元気づけるためのかけ声でしたが、次第に歌の形をとり、やがては労働歌ばかりでなく、水夫の歌すべてをShantyと呼ぶようになったのです。大海原を何ヶ月も旅する水夫達にとって、歌は彼らの大きな娯楽であり、憩いのひとときでもあったから、帆船時代にShantyが栄えたこともうなずけます。また、陸に上ればその時は酒場で彼らはShantyを歌い、それが一般に広がっていく、という形をとったわけですね。したがって、現在ではアメリカ民謡のひとつに数えられるShantyも、元をたどれば、ノルウェーからドイツ系を含むオランダ、イギリス、フランス、スペイン等にも行きあたりそれは、Shantyがフランス語のChanter（歌う）を語源としている事からもわかります。Shantyには大きく分けて次の三種類があります。

- 1、hauling-shantyといって、帆の巻き上げなどの重労働の時に歌われるもので水夫長や音頭とりの独唱に従って水夫が声を揃えて力を出すという純然たる労働歌。
- 2、windless and capstan shantyといって、錨の巻き上げや、ドック入りのひき船のときに歌われるもので、時間がかかるため、長くゆったりとしたテンポで音楽的にもすぐれたものがたくさんあります。
- 3、foc'sle shantyといって労働歌ではなく、勤務から解放された非番の水夫たちが上甲板などに集まって歌うもので、ギター等の伴奏もはいることがあり、内容も故郷や家族、恋人のことを想う感傷的なものや、酒や世俗的なものが多いようです。

〈Swansea Town〉 Swanseaはイギリスのウェールズ地方にある港町。恋人に別れを告げて出航し、ホーン岬をこえてサンフランシスコに行くけれど、なつかしいSwanseaの町と恋人のもとに戻ってくるんだ。

〈Homeward Bowd〉 アメリカで歌われている歌ですが、その発生地はドイツらしく、ヨハン・シュトラウスのオペレッタ「ジプシー男爵」の第2幕に出てきます。

〈The Drummer and The Cook〉 イギリス民謡によく見られる早口のおもしろさがよく出ている曲で、小男の鼓手と片目の料理女のユーモラスな歌です。

### Swansea Town

Oh, farewell to you, my Nancy,  
ten thousand times adieu!  
I'm bound to cross the ocean,  
girl, Once more to part from  
you; You're the girl that I  
adore.  
But still I live in hopes to see Old  
Swansea town once more.  
Now I'm outward bound around  
Cape Horn, for Frisco and afar.

さあ、我が愛しのナンシーよ、おさらばだ。一万回もさよならを言っただろうか！（長のお別れさ）海を渡るうと決めたんだよ、かわいいう君よ、もう一度君とお別れだ。君はぼくのおこがれの人だ。でもぼくはもう一度、このスワンシータウンに帰ってこようと思っている。さあ、今、ぼくはホーン岬（南米最南端の岬）をまわり、サン・フランシスコや、もっと遠い町に向かって船出して行く。

But home is ever faraway,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.  
I long to see a sign of land,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.  
I long to touch my sweet heart's  
hand,

故郷は遥か彼方  
風よ吹け、風よ  
陸地の影でもいいからみてみたい  
風よ吹け  
恋人よ、お前の手に触れていたい  
hand,

Then blow ye winds, high o' ye  
winds.  
Our ship has sailed a world  
around,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds,  
And thank to Lord we're home-  
ward bound,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.

風よ吹け、もっと強く  
俺達の船は世界をめぐる  
around,  
風よ吹け、もっともっと  
神様、おかげで家に帰れそうです  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.

Hol-la hoa Hol-la hoa

I'll write you letters when I land  
there and you'll know I'm  
homeward bound.  
Now we're off to Swansea town,  
we are, I can see the lights  
quite plain,  
And I know that Nancy's down  
by the beach with her apron  
all a spray;  
So take my ropes and make me  
fast, I'm in Swansea town once  
more;  
And all I've lived in hopes to see  
Old Swansea town once more.

むこうに着いたら君に手紙を書こう。そしたら、君は、ぼくが帰路についたことがわかるだろう。今、我々はスワンシータウンに向かう。港の灯がはっきり見えるよ。

But all I live in hopes to see Old  
Swansea town once more.

ナンシーが水しぶきにぐっしょりぬれたエプロンをつけて、浜べにおりてくるのがわかる。そして、ロープをとってひいてくれる。ぼくは、また、スワンシータウンに帰ってきたんだ。ぼくは、ずっとこのなつかしいスワンシータウンをもう一度見たいと思っていたのさ。（いつでもスワンシータウンのことを思っていたんだよ。）でも、やっぱりぼくはスワンシータウンをもう一度見たいと思っている。ただ、それだけなんだよ。

### Homeward Bound

Hol-la hoa Hol-la hoa  
The windows stare the windward  
stream,

ホラ ホー ホー ホー  
窓に風が吹きつける

Then blow ye winds, high o' ye  
winds.  
Across the wide and rolling sea,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.  
Our sails are full all night and  
day,  
Then blow ye winds, high o' ye  
winds.

風よ吹け  
逆巻く大海原を越え  
風よ吹け、もっと  
夜も昼も一日中海ばかり  
風よ吹け、強く

### The Drummer and The Cook

Oh, there was a little drummer  
and he loved a one-eyed cook  
And he loved her though she  
had a cook-eyed look, with  
her one eye in the pot, and  
the'tother up the chimney,  
with a bow, fallow the dandy,  
bow.  
Said the drummer to the cookie,  
"Ain't the weather fine to-  
day?"

片眼の料理女を恋した一人の少年鼓手がいた。やぶにらみの目のひとつ目で、湯湧かしの中を見ているのか、煙突を見上げているのか、好い男のあとを目で追っているのか、どうも同じように見えただけども、彼は彼女を愛していた。

Said the cookie to the drummer,  
"Is that all you got to say?"  
Said the drummer to the cookie,  
"Will I buy the wedding ring?"  
Said the cookie "Now you're  
talking, that would be the very  
thing!"

今日はお天気が良いかい？と彼は彼に尋ねた。それしか云うことないのかい？と彼女は答えた。「結婚指輪を買おうか？」

When they went to church to say  
"I will" the drummer got a  
nark.  
For her one eye glifed the  
parson and the'tother killed  
the clert!

「やっとなんか云ったね！」  
「アイ・ウィル」を云うために 結婚の宣誓をするために 教会へ行ったとき、打ちのめされた。何故なら、彼女のひとつ目が彼をばうとさせると同時に、牧師さんを夢中させていたから。



## 合同演奏



指揮者 関屋 晋

早稲田大学政治経済学部卒業。卒業後、数年のサラリーマン生活を経て、合唱指揮に専念。現在、湘南市民コール、松原混声合唱団、早稲田大学コールフリーゲルなど、10余団体の常任指揮者をつとめる。各合唱団の性格を的確にとらえ、その個性を生かした音楽づくりには定評がある。

1978年秋、小澤征爾指揮・新日本フィルハーモニーのカテドラル・シリーズ「スタバト・マター」(ドボルザーク)において、コーラスマスターとして湘南・松原を指揮して小澤氏に認められ、以後、同シリーズおよび新日本フィル定期演奏会等で、コーラスマスターとしての地位を確立。また、1981年、ホルスト・シュタイン指揮・NHK交響楽団の定期での「テ・デウム」(ブルックナー)を皮切りに、ライトナー、サバリッシュ(今年5月の定期「天地創造」(ハイドン))各氏の指揮のもと、晋友会(湘南・松原を含む関屋晋傘下の合唱団)を率いてN響との演奏においてもコーラスマスターとして活躍。各巨匠より絶讃をあげている。

### 合唱は関西

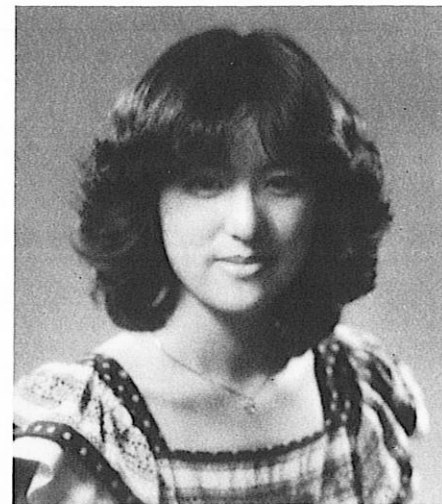
いろいろな街へ行って、いろいろな合唱団の人達に会うのは楽しい。近頃はどこの街へ行っても、街並みが似てきて、何々通りとかオフィス街はどこも同じ造りで、一瞬、自分の街でないことを忘れるときがある。それでも、いわゆる“雑貨屋さん”というか“小間物屋さん”といった種類のお店で、昔のまゝの店構えをみつけると、東京にもこんなお店があったことを思い出してなつかしくなる。

言葉もそうだ。二十何年前、関西に住んでいたことがあるが、電車なんかに乗ってみると、周囲で話している言葉が、自分のとは全く違う語り口なのに驚いた。先日、そのとき住んでいた辺りを通ってみて、以前と全く変わってしまったのにびっくりした。そして、昔のように電車に乗っても、あの“関西弁”が私を驚かせなくなった。

そういえば、この間鹿児島へ行ったら、土地の人が「ケ・ケ・ケ」というのはどういう意味かわかるかと尋いた。何度聞いても何も思い浮かばないから降参したら「今日、貝を買って来た」という意味だと教えてくれた。そしたら中の一人が、それなら「ケ・ケ・ケ・ケ」と「ケ」が四つじゃないのかといふ。だした。でも一番驚いたのは、これは大阪からやって来たタレントが、テレビで話したのだそうで、大阪の人が“鹿児島弁”を探してきて、街中で昔を思い出したという冗談みたいな話である。

今回、関西六連の合同指揮を引受けて、何年かぶりで聴く関西六連の響きはどんななのか。関西に住んでいて、演奏会場で聴いた大学の合唱、初めて六連——今と構成が違っていただかもしれない——を指揮した時、その後でもう一度、お付き合いしているかもしれないが、一回毎に少しずつ違った感じがしたが、どこかに“老舗”の響きが残っていて、嬉しかったことを憶えている。

世の中“地方の時代”など見直されているが、合唱は昔から“関西に限る”といわれている。今夜が楽しみである。



伴奏者 山本 篤子

相愛女子大学音楽学部器楽科ピアノ科専攻卒業。武田邦夫、井口基成、志賀宗三郎の諸氏に師事。また、大学在学中より関西の多くの合唱団の伴奏をつとめる。現在、女声合唱団セシリア専属ピアニスト。

## 枯木と太陽の歌

この作品は、昭和31年、作曲・石井歓、作詞・中田浩一郎によってつくられ、ドイツでも出版され、レコードにも吹き込まれたという男声合唱の名曲の一つである。

全体として、Ⅰ 枯木は独りで唱う Ⅱ 花と太陽の会話 Ⅲ 冬の夜の木枯しの合唱 Ⅳ 枯木は太陽に祈る の4つの曲から成り立っており、男声合唱の美しさ、その力強さ、表現の幅広さが、祈りとなり、或いは怒りとなり、又甘く、或いは叫びとなって、この世の平和と、この世の恵みこそ、我が願い、我が望みであるとしめくくっているのである。そして、この4曲は、交響曲における4楽章の様な役目を果たしているのである。

作曲者、石井歓氏は、この「枯木と太陽の歌」こそ、男声合唱のみに存在する特種な美しさに接し、そして、その美しさ、その力強さ、表現の幅広さといった魅力に否応なく引きつけられて創られた作品であり、この作品の一貫したイメージは、孤独なる人間の人生に於けるつきつめた哀歓であると述べている。この言葉のとおり、あるところではユニゾン或いは二重唱で男らしい力強さを、又あるところでは音を重ねることによって木枯しが吹き荒れる時の重々しい感じを出している。日本語から出るリズムの面白さや曲の途中に見られるテンポのはやさもこの曲の特色の一つである。

Ⅰ 枯木は独りで唱う  
枯木は独りで唱う  
枯木は独りきりで唱う  
枯木は独りなのだ  
枯木は独りきりだよ

今宵の月の出に  
夜空に向かって  
心こめて唱うよ  
生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ  
悲しい祭りだ

大地の深い眠り覚めよ  
枯木は思うさま唱うよ

地軸をふるわせ 星にもとどけと  
枯木は すべての思いこめて  
夜空に向って 唱うよ

神への願いだ  
神への祈りだ

襲うは くろかげ  
悪魔の 怒りだ

轟く かみなり  
きらめく 光りだ  
大地は狂うよ  
この世の終わりの  
天地は裂けるよ

Ha ha ha ha ha ha

枯木よ折れるな  
枯木よ折れるな

亜魔に打ち克て  
消え去れ くろかげ

枯木は独りで唱う  
枯木は独りきりだ  
独りで唱うだけだよ  
ひとりで ひとりで……

Ⅱ 花と太陽の会話  
Lon lon lon lon lon

そらごらん あの岡  
そらごらん 野原を  
花はく 萌えるよ

そらごらん あの里  
野は光り 鳥鳴く  
陽は昇る 大空

花の言葉 優しく  
陽に向かいささやく  
今日の恵み 喜び

花咲くあの岡越え  
あの里 荷馬車は行く  
はるかに……

今日の恵み 喜び  
花開き 唱えよ  
陽は燃え輝く

花咲くあの岡越え  
あの里 荷馬車は行く  
はるかに……

晴れわたる青空  
陽は燃え めぐるよ  
咲く花にはほえみ

散る花にささやき  
やさし愛ののぞみを  
いつまでも忘れず

花咲くあの岡越え  
はるかに  
消えゆく 消えゆく……

Ⅲ 冬の夜の木枯しの合唱  
黒雲ひろがる 嵐が来る  
足をふまえて 枝葉をあげ

北風吹く 吹雪がくる  
吹雪に耐え 克て 克て

葉っぱは落ちて木はやせても  
肩を並べて 力を合わせろ

嵐がくる 吹雪がくる  
北風吹き 荒れ 鳴り  
吹き 荒れ 飛び去る……

春の日 岡は暮れ  
友と二人の思い出は  
いまは去り  
鐘の音のやさしく鳴りわたる  
夕の祈り いつの日かかえる

樹々はしおれ 青ざめて

声もなく  
我が身を嘆き  
打ちふるえ涙く  
春の日  
岡に聞いた鐘の音よ

望みを捨てな 嵐に向かおう  
力をふるって

吹雪だ 疾風だ 天地に響くよ

葉っぱは散っても幹は折れても  
力をふるって闘い続けよ

北風吹く 吹雪がくる  
吹雪に耐え 克て 克て

嵐が終わって 傷つき倒れて  
林に残ったひとつの枯木が  
雄叫び あげるよ  
雄叫び あげるよ……

Ⅳ 枯木は太陽に祈る  
枯木は独りで唱う  
枯木は独りなのだ  
独りで唱うだけだよ

今宵の月の出に  
夜空に真向いて  
こころこめて唱うよ  
生命の限り叫ぶよ

きれいな月の夜だ  
悲しい祭りだ  
生命のかぎり

枯木はいつも独りだ  
闘い疲れ果て  
傷つく躬を  
励ましふるって  
枯木は思うさま 唱うよ

大地をふるわせ  
のぞみを求めて  
悲しいところをいたわり

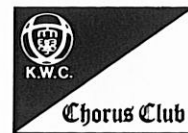
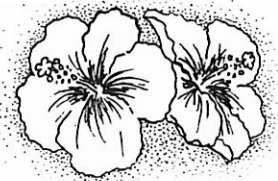
〈この世の平和と  
この世の恵みこそ  
我が願い 我がのぞみ  
のぞみ のぞみ……〉



★ 第 19 回 ★  
大阪樟蔭女子大学コーラス部定期演奏会

—— 1982年11月28日(日) 森ノ宮ピロティホール PM6:00開演 ——

- 曲目 フォーレ合唱曲集 フォーレ 作曲  
こどものための合唱曲集「光のとおりみち」 三善晃 作曲  
コダーイ合唱曲集より コダーイ 作曲  
ミュージカル「南太平洋」  
●指揮 富岡 健



神戸女子大学コーラス部  
第10回定期演奏会

- I 雛の春秋 作曲 高田三郎  
II しあわせハンス 作詞・作曲 田辺秀治 原作 グリム兄弟  
III MISSA BREVIS IN D 作曲 BE.BRITTEN 客演指揮 斉田好男  
IV 駿河のうた 作曲 湯山 昭



1982年11月30日(火) PM 6:30開演 神戸文化中ホール ¥400

神戸海星女子学院大学グリークラブ

☆ 第16回定期演奏会 ☆

—— 1982年12月5日(日) 2:30p.m開場神戸文化中ホール ——

- I. 四つの秋の歌 作曲 三善 晃  
II. Simon & Garfunkle's Number より  
III. Christmas Charol 客演指揮 薮内 馨  
IV. 美しい訣れの朝 作曲 中田喜直

¥400

〈連絡先〉  
0798-52-7244  
田崎りか

Stella Maris

第14回梅花女子大学合唱団定期演奏会

1982年12月12日(日) PM 1:30開演 森の宮ピロティホール

- 《曲目》 愛の風船  
MISSA BREVIS IN D  
サイモン & ガーファンクルより  
九州民謡によるコンポジション

〈連絡先〉 0742-43-1353 福島和子



甲南女子大学コーラス部  
第19回定期演奏会

- ♪ Dixit Dominus 作曲 Baldassare Galuppi ♪指揮  
♪ 女声合唱組曲「光る砂漠」 作曲 萩原英彦 作詩 矢澤幸 洲脇光一  
♪ 日本の歌 ～島原の子守歌、赤とんぼ 他 青山裕子  
♪ 女声合唱のための組曲「月夜三章」 作曲 三善晃 作詩 中原中也

1982年12月16日(木) PM6:30開演 神戸文化中ホール



帝塚山学院大学コール・ユニ  
第10回定期演奏会

- 〔曲目〕「イタリア歌曲集」より6曲 〔指揮〕水谷 康子  
紅 花 抄 佐藤公仁代  
Wedding Chorus 田中千香子  
北陸の子ども歌

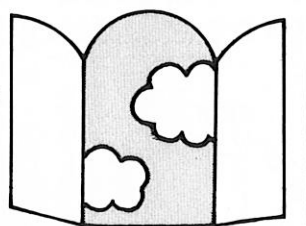
12月17日(金) 6:30PM開演 森の宮ピロティホール ¥500



武庫川女子大学コーラス部  
第15回定期演奏会

- ・ことばあそびうた  
・Johann Strauss曲集  
・美しい訣れの朝  
・五つのわらべうた

1982.12.18(土) PM6:00開演 西宮市民会館



1982年12月18日(土) P.M5:30開場 大阪府立労働センター  
P.M6:00開演

- ・ことばあそびうた 作曲 新実徳英  
・(イギリスの詩による)マドリゲル 作曲 THOMAS WEELES 他  
・Carnival of Screen Music 編曲 蓮池美香  
・混声合唱組曲「海の詩」 作曲 広瀬量平  
—— 賛助・大阪市立大学グリークラブ有志 ——  
・月夜三章 作曲 三善 晃

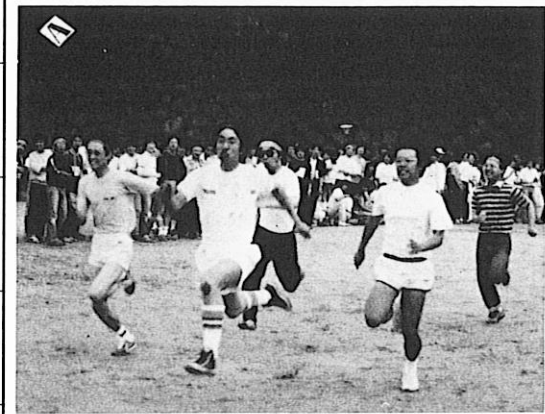
第13回 相愛大学女声合唱部定期演奏会



# 六連運動会

11月3日水曜日  
ロクスポーツ本社  
中央印刷  
略称(ロクスポーツ)

## 泥の中の激闘



この直後、同大転倒

### 合唱界のスプリンター激走す 6レース中4レース1位を独占



阪大が圧倒的な強さを見せた6レース中4レースまで1位を独占、体力の阪大の名を轟かせた。元運動部員の活躍がめざましく、2位の関学にも経験者が多いが阪大との差は練習量(勿論合唱)の差であらうか。日頃の練習の3分の1でも体力作りに励めば優勝戦線にのし上がってくることは間違いない。さて見逃がせないのが3位の甲南。部員数も着実に増え質とも充実してきている。また信じられない弱さを見たのが同志社で、6レース中4レースがビリという悲惨な結果。3位入賞にすぎない。

アナウンサー：坂本 薫(神戸松蔭)  
録：小林美喜(京都女子)

### 天声人語

五月三日は憲法記念日である。と同時に合唱界のインカレとも言われる六連運動会の日でもある。今年には特にユニークな常任委員を取り揃えた。人気が甲南、堅物関大、遊び人立命、クールな阪大、暗い性格の同志社、そして横顔会計の関学である。毎年数々のドラマを生むこの運動会、今年も色々話題が生まれた。先ず甲南の台頭、軟弱から脱皮をはかる姿は我々の感動を呼ぶには足りない。阪大、関大のその体力、男らしさも女性ファンをひきつけた。あう。関学の団結の精神と、立命の激しさは、成績にかかわらず、すがすがしいものを我々に残し、運動会の在り方を示したものと云えよう。それにひきかえ同志社の意欲、応援女子大からの非難の声をあび、同志社の六連委員、その暗い性格に、大阪城の堀を見つめ、自殺の誘惑と闘ったという。▼とあれ、ドラマがあるから六連運動会なのか、六連運動会だからドラマがあるのか、これからも六つの大学が団結して頑張りたいと思っている。(D大)

音取りなら  
WAHAHA  
ピアノカ  
DASAIZO  
CHORUS UNIFORM

| 順位<br>(得点) | 1位    | 2位    | 3位     | 4位    | 5位               | 6位              |
|------------|-------|-------|--------|-------|------------------|-----------------|
| 種目         | 極道レース | 体力レース | 11人12脚 | 短距離走  | 指揮者<br>部長<br>レース | ラブ・アタック<br>(一部) |
| 6          | 関学46  | 阪大30  | 甲南30   | 関大25  | 同志社15            | 立命10            |
| 5          | 阪大89  | 関大88  | 甲南75   | 関学58  | 立命55             | 同志社33           |
| 4          | 阪大25  | 関大20  | 立命15   | 同志社10 | 関学5              | 甲南0             |
| 3          | 関大48  | 関学34  | 甲南32   | 阪大29  | 立命26             | 同志社14           |
| 2          | 関大50  | 甲南40  | 同志社35  | 阪大30  | 立命25             | 関学25            |
| 1          | 甲南15  | 関学10  | 阪大5    |       |                  |                 |

### 応援女子大

- 関西大学グリークラブ
- 相愛大学女声合唱部
- 立命館大学メンネルコール
- 武庫川女子大学コーラス部
- 甲南大学グリークラブ
- 甲南女子大学コーラス部
- 大阪大学男声合唱団
- 神戸女子大学コーラス部
- 同志社グリークラブ
- 大阪樟蔭女子大学コーラス部
- 関西学院グリークラブ
- 梅花女子大学合唱団

## 仕組！体力レース

日頃の体力作りが物を言うこの競技は、予想通り阪大と関大の熾烈な争いとなった。結果は阪大が一点差で関大を振り切った。2位関大、次いでこのでも甲南が健闘し3位につけた。(手押し車) どれだけ長い距離を歩けるかを競うデスマッチ。立命が予想外の強さを発揮し見事1位。応援の武庫女は「モシモシ亀よ」と思ってたのに亀の様なひたむきさと知能で勝つてくれた。ステキ！と喜びの声をあげていた。他の女子大の声を拾って「ぬかるみの中、見るも哀れなお姿でした」(樟蔭)「まさに田嶋、かわいそうだと思うしめて煩ずりしてあげたくなりました」。

(神戸女子)「かわいそう、悲惨な光景でした。何事も忍耐メチャ苦いですが、それにしてもだと思いました」(甲南女子)「女子大の声からもレースの凄まじさをおかいたただけるであらう。君は青春に何をみたか」「びつくり日本新記録より」(腹筋) 開始早々タウンの立命本人によれば「朝食をとっていません」そう、いた仕方ななかった。三日間飲み食わずが続いたのだから。しかし、応援の武庫女は「野球部だって言うから安心して送り出したのに」と呆れた顔。梅花も「関学の美声を支える腹筋のなにどうして？」シリアな競技にもかかわらず「記憶にございせん」とぼやいてました。

### おわび

一部に競技にいて、判定のミスがあり、選手の皆さんにご迷惑をおかけしましたことを常任委員一同、心よりお詫言申し上げます。六連幹事、大会委員長と要職を兼ね、この一年で合唱界の人脈となった甲南大の前田は「頭痛いわ」と一人ぼやいてました。

## ラブ♥アタック

- 1部 甲南大・長尾
- 2部 関学・辰井

応援女子の手作り弁当をたいらげた各団員は満腹で本部前へ集合。誰の精進が悪いのか雨が。雨の降る中、第1部が始められた。アタッカーには甲南女子二回生Nさん。姫を前にアタッカーの心は益々燃え上がる。第1の難関は水のついた洗面器に顔を一つ、一番早く顔を上げた人が失格腹式呼吸ができていたのか、一目瞭然と、大学の名誉をかけたアタッカーは必死である。結果はある大学が失格。そして後援性をみる第2の難関を突破した甲南の長尾、関学の寺田、阪大の遠藤は第3の難関、早食い競争に挑んだ。カンビール、弁当、レモンと苦しみ乍ら甲南の長尾が見事1位(胃)。2位には関学の寺田が。阪大の遠藤は2連覇の夢破れ3位に。そんな彼に神戸女子は「思わすフツと拳を差出してタールを肩に掛けてあげたかったレス」と。姫と、あっち向いてホイ、をする権利を得た長尾だが、あっさり負け、口づけの代わりに頭から水をプレゼントされた。第2部のかぐや姫は梅花二回生Sさん。バツと見、硬派、関大の米川は「関大のエネルギー」を歌ったが、あまりのひとさまに主将梅村が観客に対し深々と頭を下げて、る姿に心をうたれた(ハハハ)。さて見事姫を射止めたのはユーモアあふれる「カモメのヨデル」を歌った関学の辰井。滑稽な表情と声で観客を魅了し万雷の拍手を受けた。彼を選んだ理由を尋ねると姫は「応援している関学の方だから」と答えたが、しなくて済んだ口づけをし、ぶすぶす羽目になった。六連ラブアタックでOKが出たのは前代未聞。

### 指揮者・部長さんごめね

一部早食い。愛の芽はえたカップル写す！

日頃部員をいじる指揮者、部長をこの日とはばかり、仕返しをした。(許してネ)

(指揮者)「甲南の西尾が、甲南の1位。甲南女子は「御見事」と拍手。梅花は「あと一歩で下位だったのに最後の1歩で上り、また、ゲームをよこら」が。また、ゲームをよこすに神戸女子は「坂田さん、かわいい」、相愛は「もち肌が見え物になった」とか(ハハ)いい見せ物になった。

(部長)「関大の梅村が他を寄せつけず1位。『親分偉い』流石、男の中の男」と相愛はベタ誉め。イヤ、封筒の中身を教える立派な女子分をお持ちで。立命のOはロリコンのせいかに。

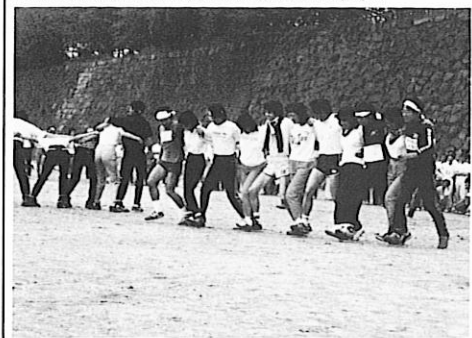


## 11人12脚

息もピッタリ好記録

|    |       |
|----|-------|
| 阪大 | 21秒13 |
| 関大 | 24秒85 |
| 立命 | 26秒87 |

こけた！転んだ！  
(サワッター?)



タイムレースである。第1レースは関大と相愛VS立命と武庫女。関大と相愛は好調な出足をみせ24秒85の好記録。「久々に男性と肩を組んですくめしかなかった(真の声、誰かの足の長さ)」という武庫女に勝利し、関大は26秒87でゴールイン。勝利の女神、と言われる武庫女だったのだが、相愛は「うちにどんくさい人が一人おりました。足を引張ってごめんなさい」流石の関大も足を引張られてはたまらない。この人がいなければ1位になっていたのに、惜しまれる。第2レースは同志社と樟蔭VS甲南と甲南女子。女の扱いでは定評のある同志社だが記録は1分5秒と振るわなかった。レースよりもスキャンシップを楽しんでいた様である。今大会のタックホース、甲南のデクニックが期待されたが血眼の甲南は何度も転倒。1分20秒と最下位。さて第3レースは関大と神戸女子VS関学と梅花。関大と神戸女子が21秒13と快走し1位を獲得。一方、関学と梅花は1分7秒と大幅に遅れた。神戸女子は「関大とうちの相性の良さが出ました。何も言うことはありません。日焼けもしなかった」と手放しの喜び。梅花は「11人12脚必勝の必要条件」として「一、足の長さ二、リズム感三、敏速性」をあげ意気込んでいたが一番だけはどうしうもなかった。レース後甲南女子は「くやしーい。人が必死で何度も転んでいるのに阪大と神戸女子に手を振ってもらって光栄でした。阪大さんはうちと合ハイで練習した甲斐がありましたネ。(イタタタ)合ハイでもひたすら六連に向け練習に励んだ阪大に軍配があつた様だ。

## 琴の音が流れる和風のお店です

甘党喫茶ルーム

大阪駅前老舗



お好み焼ルーム

当店独得の風味をご賞味下さい。

甘党の店



inaka

■営業時間：午前9時30分～午後10時  
■定休日：毎月第2日曜日

大阪市北区梅田1丁目3番地 大阪駅前第1ビルB1 TEL 346-5727・341-6563

## お食事処・酒房

なだ さと  
灘の郷

日本調ムードの落ち着いた雰囲気、おでん・焼鳥、その他数多くの一品料理を低料金で用意致しております。

## 焼肉処

しょう じょう  
猩々

ゴージャスな山小屋風雰囲気の中、しかも低料金で素晴らしい神戸肉を味わって戴けます。

|                                |                               |                |                             |
|--------------------------------|-------------------------------|----------------|-----------------------------|
| 営業時間<br>11時～9時<br>定休日<br>カ3水曜日 | 灘の郷<br>猩々<br>センターフラザ<br>センター街 | 阪急三宮駅<br>さんフラザ | TEL<br>078<br>(332)<br>0010 |
|--------------------------------|-------------------------------|----------------|-----------------------------|

神戸市生田区三宮町2丁目センタープラザ西館B1 代表者 亀井清一郎(関西学院グリークラブ昭和37年卒)



**SAM** Records

録音全般・各種レコード製作  
 株式会社 **阪神リズムレコーディング**

〒651 神戸市中央区上筒井通5-2-10  
 TEL (078) 241-1899(代)

 **osaka photo**

**(株)大阪フォト サービス カンパニー**

〒550 大阪市西区江之子島1丁目5-17  
 TEL 06(443)7608(代表)



**ニュー ミュンヘン**  
**南大使館**

和室200名・中華ルーム100名・貴賓室70名・大ホール500名  
 生ビール、和食、洋食、中華、喫茶

❧ **募 集** ❧

長期学生アルバイト

学生コンパ大歓迎

南区千日前プラザビル2F

Tel. 211-8827  
 8828

●営業時間

平日 PM3:00~23:00

日祝日 PM12:00~23:00

ひとつの製品を完成させるにあたり、各分野の専門スタッフが、全力を傾注しています。正確に、スピーディに、しかも、密度の高いものを目指し、ひとつの輪は、今日も明日もたゆまず動きつづけます。

**いま、何かをお求めなら**

合唱団の良きアドバイザー。



印刷を通じて気さくなおつきあい  
**中央印刷株式会社**

本 社・企画室 ☎542 大阪市南区谷町6丁目6番7号 TEL. 06(763)2632(代)  
 事務所・工 場 ☎593 堺市鳳東町5丁487-56 TEL.0722(73)1151(代)



# メンバー紹介

## 関西大学グリークラブ

主 将 梅 村 正 直  
指揮者 林 伸 二 郎

|                     |           |           |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |           |           |
| 沢村 直幸(経4)           | 大鼓 敏和(法3) | 東 隆行(経2)  | 建部 富久(商2) | 西本 豊(社1)  |
| 常川 浩(社4)            | 倉本 洋(経3)  | 北垣 弘(法2)  | 中村 浩士(工2) | 八木 準一(社1) |
| 古川 知秀(商4)           | 古丸 靖(商3)  | 斎藤実紀夫(工2) | 井上 善誉(文1) | 吉田 浩(社1)  |
| 山本 望(社4)            | 浜本 功(社3)  | 榎原 仁(工2)  | 鹿野 伸二(商1) |           |
| 若園 健治(法4)           | 山本 孝一(社3) | 高松 寿(社2)  | 下楠 朋之(法1) |           |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |           |           |
| 岡本 達幸(文4)           | 米川 謙二(商4) | 山下 浩(法3)  | 寺本 稔(法2)  | 川原 大生(社1) |
| 坂本 達也(社4)           | 大冢 宏(文3)  | 吉田 光利(経3) | 東浦 邦弘(社2) | 木滑 俊也(商1) |
| 白石 貢(法4)            | 富尾 浩之(経3) | 阿部 純也(商2) | 増井 建一(工2) | 中森 淳(経1)  |
| 二宮 敏宏(社4)           | 林 浩史(法3)  | 小阪 善信(社2) | 植田 定信(経1) | 横手 憲二(法1) |
| 藤井 良之(法4)           | 三木 英和(法3) | 田中 伸一(経2) | 植田 秀俊(社1) |           |
| <b>Baritone</b>     |           |           |           |           |
| 梅村 正直(社4)           | 古谷 正人(法4) | 土岐 勝啓(法3) | 藤本 潤(社2)  | 長原 主和(商1) |
| 倉田 公雄(文4)           | 新居 昌明(法3) | 松井 邦彦(経3) | 船越 浩(文2)  | 平林 丈典(法1) |
| 谷沢 正明(経4)           | 上田 泰正(法3) | 片山 稔也(法2) | 古家 辰治(商2) | 八木 一磨(経1) |
| 中崎 慎司(社4)           | 尾田木博之(法3) | 北本 賀也(経2) | 小関 幸浩(社1) | 湯藤 彰(工1)  |
| 林 伸二郎(文4)           | 竹本 治(社3)  | 杉村 裕史(社2) | 椿 真志(商1)  |           |
| <b>Bass</b>         |           |           |           |           |
| 梶 広志(社4)            | 上遠野浩一(文3) | 大沢 裕司(文2) | 真下 明彦(法2) | 竹原 勉(法1)  |
| 小西 健一(法4)           | 河野 秀文(法3) | 大西 徹(社2)  | 横田 裕導(法2) | 田中 誠(法1)  |
| 清水 正三(社4)           | 阪田 昌英(法3) | 小西 常夫(法2) | 米沢 明(文2)  | 西田 利之(社1) |
| 富吉 修(社4)            | 三納 哲也(社3) | 角田 浩介(商2) | 加藤 豊(文1)  | 吉田 太(社1)  |
| 宮沢 勝弥(文4)           | 福家 和彦(経3) | 西崎 勉(社2)  | 塩見 哲朗(商1) |           |
| 岡島 徹(社3)            | 武藤 朝美(商3) | 春田 英樹(法2) | 砂川 聡(社1)  |           |

## 立命館大学メンネルコール

部 長 越 智 賢 司  
指揮者 片 桐 清 実

|                     |           |           |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |           |           |
| 末次 克行(理4)           | 内海 修(産3)  | 安井 誠治(産2) | 後藤 正樹(法1) | 山田 哲也(法1) |
| 矢形 和喜(理4)           | 小椋 泰志(産3) | 横田 逸朗(法2) | 田中 秀樹(法1) |           |
| 吉岡 宏泰(産4)           | 末廣 和巳(産3) | 岩沢 紀幸(産1) | 松尾桂一郎(法1) |           |
| 井上 暢久(産3)           | 金本 真己(法2) | 加藤 雅章(法1) | 山田 健(経1)  |           |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |           |           |
| 奥家 邦弘(産4)           | 上川 勝(産3)  | 金津 正男(理2) | 湯野 浩之(経2) | 長尾 敬(産1)  |
| 古閑 照也(経4)           | 松林 郁夫(理3) | 服部 浩巳(産2) | 井上 博文(理1) | 橋本 裕信(理1) |
| 児玉 敏男(文4)           | 宮本 浩嗣(産3) | 藤田 正芳(理2) | 川合 正能(法1) | 堀 良嗣(理1)  |
| 宮部 善行(経4)           | 池田 昌隆(産2) | 宮辻 徹(理2)  | 川上 正規(理1) | 増田 達夫(法1) |
| 伊藤 正俊(法3)           | 柿野 元博(経2) | 山田 雅彦(産2) | 末国栄之介(理1) |           |
| <b>Baritone</b>     |           |           |           |           |
| 越智 賢司(産4)           | 八木 浩司(産4) | 井出 久信(文2) | 正木 茂(理2)  | 角 隆司(産1)  |
| 片桐 清実(文4)           | 吉田 敏志(産4) | 川上 英俊(産2) | 赤松 義則(理1) | 松岡 薫(産1)  |
| 木村 信浩(産4)           | 小川 恵司(産3) | 坂田 勝利(経2) | 植田 省三(産1) | 本窪田喜広(法1) |
| 鈴木 茂基(産4)           | 尾関 浩司(経3) | 影近 晴治(法2) | 小西 充(産1)  | 河瀬 光司(産1) |
| 田中 哲也(理4)           | 深澤 博昭(産3) | 川上 英俊(産2) | 佐藤 忠久(経1) | 山崎 弘喜(法1) |
| <b>Bass</b>         |           |           |           |           |
| 阿部 幸雄(産4)           | 八塚 正憲(産4) | 佐々木賢一(文3) | 安森 浩(理2)  | 細川 俊之(法1) |
| 高山 靖(理4)            | 相川 勝彦(経3) | 中野 了吾(文3) | 佐井 博(理1)  | 馬淵 良和(理1) |
| 西山 光則(理4)           | 浅川 修一(理3) | 浅野 竜生(法2) | 高橋 理(産1)  |           |
| 松野 和生(法4)           | 天海 俊充(産3) | 田中 禎一(理2) | 布村 敏数(産1) |           |
| 八島 博之(法4)           | 伊賀 浩二(産3) | 西田 功(産2)  | 鈴木 健司(理1) |           |

## 甲南大学グリークラブ

部 長 覚 野 茂 邦  
指揮者 西 尾 健 司

|                     |           |           |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |           |           |
| 井上 陽介(産4)           | 菊原 恭史(理3) | 金田 宏(産2)  | 荒木 伸雄(法1) | 中田 智興(法1) |
| 田中 裕二(経4)           | 坂口 昌也(理3) | 川島 吉博(法2) | 大前 靖彦(文1) | 福島 伸彦(産1) |
| 畠山 浩(理4)            | 西尾 健司(理3) | 越山 雄(経2)  | 浩(理1)     | 福田 雅之(法1) |
| 三木 美裕(産4)           | 稲井 英人(文2) | 高橋 敏浩(法2) | 富岡 伸幸(理1) |           |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |           |           |
| 榎部 薫(産4)            | 森 敏浩(産4)  | 覚野 茂邦(産3) | 土方 晶彦(経2) | 福里 宗明(理1) |
| 国原 和彦(経4)           | 石黒 裕章(産3) | 前田 淳造(産3) | 松田 博義(産2) | 吉野 順(理1)  |
| 嶋 忠志(法4)            | 大塚 善之(文3) | 石黒 弘樹(理2) | 相沢 久志(経1) |           |
| 岡 徹夫(産4)            | 大西 一成(産3) | 浦井 誠(文2)  | 広瀬 俊樹(文1) |           |
| <b>Baritone</b>     |           |           |           |           |
| 岡室 正則(法4)           | 中島 秀浩(文3) | 萬代 徹文(理2) | 種田 祐次(経1) | 浜崎 修二(理1) |
| 神下 修一(産4)           | 成田 知弥(理3) | 東 善俊(理2)  | 後藤 尚(文1)  | 林 博紀(経1)  |
| 宮内 正彦(理3)           | 野田 政生(理3) | 福原 清(経2)  | 保久(法1)    | 横田 雅人(産1) |
| 上田 好一(産3)           | 山登 英司(経3) | 山田 博(産2)  | 濱口 欣也(文1) |           |
| <b>Bass</b>         |           |           |           |           |
| 岩間健太郎(経4)           | 乾 了介(法3)  | 吉田 宏之(理3) | 松岡 祥泰(文2) | 吉田 泰利(経1) |
| 木村 長典(産4)           | 岩田 卓也(法3) | 伊藤 謙二(文2) | 蔵田 康智(理1) |           |
| 長尾 芳光(産4)           | 高橋新一郎(理3) | 瀧中 哲郎(経2) | 清水 英樹(法1) |           |
| 吉崎 博史(産4)           | 中谷 文人(経3) | 高田 真一(理2) | 俵 英也(法1)  |           |

# メンバー紹介

## 大阪大学男声合唱団

委員長 矢 座 正 昭  
指揮者 坂 田 裕 二

|                     |           |           |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |           |           |
| 赤松 茂樹(工4)           | 松本 浩昭(経4) | 中野 研吾(基3) | 花田 武司(法2) | 千草 智(工1)  |
| 遠藤 健次(工4)           | 井上 透(工3)  | 千葉 航一(人2) | 古城 秀明(基1) | 丸山 真(工1)  |
| 指野 博義(文4)           | 井本 浩一(工3) | 西田 良輝(基2) | 田中 淳(経1)  | 濱名 優(工1)  |
| 瀬部 達夫(法4)           | 酒井 正浩(人3) |           |           | 福岡 泰彦(基1) |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |           |           |
| 明渡 寛(医4)            | 初山 卓哉(医4) | 関根 直樹(法3) | 岡本 悦郎(工2) | 森山 吉浩(経2) |
| 岡部 寛正(理4)           | 石田 齐(工3)  | 鳩野 逸生(工3) | 北岡 賢治(基2) | 大野 浩司(医1) |
| 長田 憲一(工4)           | 枝木 秀行(工3) | 逸見 研一(理2) | 栗林 康幸(法2) | 川田 卓嗣(基1) |
| 古川 秀夫(人4)           | 片岡 全樹(法3) | 宇崎 俊介(理2) | 丸山 齐史(基2) | 黒瀬 博正(基1) |
| <b>Baritone</b>     |           |           |           |           |
| 池田 直昭(工4)           | 永田 明峰(基4) | 村上 晴久(基3) | 樋口 章(経2)  | 清田 展弘(法1) |
| 岩代 孝之(人4)           | 阪本 俊生(人3) | 井上 研二(工2) | 山極 元穂(経2) | 倉智 亮吉(基1) |
| 大場 重喜(基4)           | 下条 雅人(理3) | 須崎 嘉文(工2) | 足立 寿史(基1) | 末富 雅之(基1) |
| 岡本 卓治(理4)           | 深堀 明彦(人3) | 中村 宣雄(医2) | 岡本 光隆(基1) | 中川 智仁(基1) |
| 亀田 浩一(法4)           | 宮本 和(工3)  | 服部裕一郎(法2) | 木曾 敏浩(基1) | 二片 敏(経1)  |
| <b>Bass</b>         |           |           |           |           |
| 駒 省二(工4)            | 岩本 修司(基3) | 前田 秀雄(基3) | 鈴木 秀生(工2) | 石川 浩(法1)  |
| 坂田 裕二(文4)           | 大野 吉孝(工3) | 宮地 清(基3)  | 藤田 徹也(理2) | 岩金 健司(法1) |
| 藤 通昭(理4)            | 陰山 稔(基3)  | 渡辺 和典(工3) | 藤田 秀樹(経2) | 大江 謙二(基1) |
| 藤野 大助(基4)           | 猿山 進(基3)  | 木村 純(経2)  | 藤田 正彦(経2) | 佐々木康人(経1) |
| 矢座 正昭(経4)           | 堀 裕二(工3)  | 佐藤 文俊(経2) | 八木 良治(基2) | 鈴木 精二(産1) |

## 同志社グリークラブ

幹事長 諸 江 修  
指揮者 楠 敏 也

|                     |           |           |            |           |
|---------------------|-----------|-----------|------------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |            |           |
| 畠中 達哉(法4)           | 西山 勲(経3)  | 河村 一良(商2) | 山中 光(商2)   | 二宮 孝之(経1) |
| 加古 立史(文4)           | 齊藤 睦彦(神3) | 宮井 健(工2)  | 伊勢 恒介(工1)  | 戸塚 欽也(法1) |
| 栗原 賢(商4)            | 豊田 高紀(経3) | 森 知史(工2)  | 神足 孝明(法1)  | 山田 成彦(経1) |
| 楠 敏也(法4)            | 梶原 昌彦(法2) | 佐々木 涉(経2) | 小杉 泰幸(法1)  | 尾池 智治(法1) |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |            |           |
| 池田 英生(経4)           | 上田 慎一(工4) | 須藤 彰治(商3) | 中小路智一(法2)  | 木下 勝(法1)  |
| 木村 計司(文4)           | 溝端 利文(文3) | 鈴木 典夫(文3) | 篠原 芳兵衛(商2) | 小屋 文彦(商1) |
| 松井 謙之(法4)           | 諸江 修(文3)  | 吉田 進次(商3) | 辻 透(商2)    | 久保 行央(経1) |
| 田中 哲夫(文4)           | 餅 一隆(商3)  | 日比 敏也(経2) | 福原 伸司(工1)  | 中村 健史(法1) |
| <b>Baritone</b>     |           |           |            |           |
| 小田垣正美(商4)           | 土佐 易弘(経4) | 小田 尚紀(経3) | 大嶋 誠司(商2)  | 灰塚 弘(工1)  |
| 佐藤 隆弘(経4)           | 藤井 啓三(商3) | 内野 直樹(経3) | 渡辺 直樹(商2)  | 長谷川和史(法1) |
| 高井 啓行(法4)           | 長谷川恵一(経3) | 山岡 敬(法3)  | 山内 豊(商2)   | 神谷 伸行(文1) |
| 武田 祥和(文4)           | 仲 貴司(商3)  | 伊勢三十六(文2) | 藤野 寿男(工1)  | 小木曾信之(工1) |
| <b>Bass</b>         |           |           |            |           |
| 前田 洋孝(商4)           | 藤本 和久(工3) | 岡田 和弘(文3) | 中田 克之(法2)  | 和田 秀樹(経2) |
| 佐藤 敏(経4)            | 橋本 裕和(経3) | 片岡 和彦(経2) | 西尾 強志(文2)  | 遠藤雄一郎(工1) |
| 里内 知巳(文4)           | 鋒山 琢磨(文3) | 久保田哲哉(工2) | 白井 幸彦(法2)  | 加藤 栄嗣(法1) |
| 高沢 隆司(文4)           | 飯田 勝美(法3) | 中西 宏(文2)  | 高橋 圭二(法2)  | 小西 正俊(商1) |
| 薬師神重司(経4)           | 松本 良太(法3) | 中西 雅樹(経2) | 田中光太郎(経2)  | 松浦 悟史(文1) |

## 関西学院グリークラブ

部 長 河 田 勝  
指揮者 坂 口 和 彦

|                     |           |           |           |           |
|---------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| <b>Top Tenor</b>    |           |           |           |           |
| 竹中 俊哉(経4)           | 作田 剛(社3)  | 門澤 秀樹(商3) | 隅谷 義孝(文2) | 安井 照幸(商1) |
| 坂口 和彦(理4)           | 殿村愛一郎(法3) | 岡 明彦(法3)  | 米村 義則(法2) | 高橋 和裕(商1) |
| 河田 勝(社4)            | 若井 敬(経3)  | 長谷川景一(商3) | 榎本 大(理2)  | 重松 浩(法1)  |
| 山田 雅浩(社4)           | 今井 博(文3)  | 片山 悟(経3)  | 瀬谷 裕之(法2) | 甲元 浩幸(商1) |
| 三田 欣弘(社3)           | 小岩井雅人(商3) | 吉田 昌宏(法3) | 本江 健司(商2) | 荻谷 誠(法1)  |
| 近藤 裕介(経3)           | 山下 寛(理3)  | 庄山 浩司(法3) | 辻 正喜(法1)  | 工藤 元司(社1) |
| <b>Second Tenor</b> |           |           |           |           |
| 北村 勲(商4)            | 西田 淳一(商3) | 田中 幸成(経3) | 野口 雅章(商2) | 国佐 羊二(商1) |
| 山本 哲也(商4)           | 天匂 好昭(商3) | 香西 孝喜(商3) | 藤岡 義章(商2) | 掛川 直樹(法1) |
| 中島 勝美(法4)           | 橋本 尚樹(商3) | 西山 英男(商3) | 田中 福祉(法2) | 平井 栄一(経1) |
| 高村 哲夫(商4)           | 平川 博司(経3) | 西谷 秀樹(文2) | 相馬 也卓(法2) | 谷垣 正人(法1) |
| 田中 康彦(文3)           | 村田 浩之(法3) | 平松 大輔(法2) | 高嶋 甲希(法2) | 長手 郁夫(社1) |
| 飯田 幸生(社3)           | 竹見 孝弘(経3) | 三戸 勝政(法2) | 森永 和人(社1) | 梅澤 寛明(文1) |
| <b>Baritone</b>     |           |           |           |           |
| 岡本 拓也(法4)           | 太田 直宏(法3) | 猿丸 良一(経3) | 福明 正樹(社2) | 杉山 実(経1)  |
| 松下 浩和(文4)           | 名村 誠(経3)  | 一宏(文3)    | 榎並 良樹(社2) | 神徳 和男(経2) |
| 山本 義和(法4)           | 河村 徹(文3)  | 堀井 哲男(社3) | 恵谷 篤嗣(商2) | 伊藤 正博(法2) |
| 伊藤 雅之(経4)           | 池永 明(法3)  | 小杉 穂高(商3) | 飯田 栄一(経2) | 川畑 隆一(商1) |
| 野所 俊夫(経4)           | 津田 耕一(社3) | 辰井 哲(商3)  | 八木 徹(法2)  | 南 喜雄(経1)  |
| 野坂 哲夫(法4)           | 江口 範行(商3) | 谷口 芳正(経3) | 戸田 義信(商2) | 高田 二郎(社1) |
| 沢 剛(法4)             | 小杉 寿彦(社3) | 中村 正男(法3) | 青木 克爾(社2) | 米澤 大亮(法1) |
| <b>Bass</b>         |           |           |           |           |
| 山田 真也(経4)           | 高橋 恵三(経3) | 今田 雅文(経3) | 鬼頭 悟(経2)  | 多 一郎(法2)  |
| 寺田 裕之(経4)           | 中村 和正(法3) | 石田 雅一(文1) | 吉田 徹(経2)  | 原田 昌宣(経1) |
| 石田 一郎(法4)           | 渡辺 弘之(法3) | 石崎 隆造(社3) | 津田 良司(法2) | 岡田 宣之(社1) |
| 近藤 広行(法4)           | 前田 昌男(経3) | 福島 敏明(法2) | 垣口 広之(法2) | 定方 克之(経1) |
| 宇佐美 健(経3)           | 南 昌明(商3)  | 前山 誠(文2)  | 門脇 哲郎(商2) | 垣口 芳朗(経1) |
| 永合 幹弥(法3)           | 鈴木 秀俊(社3) | 松本 和巳(商2) | 福本 裕行(経2) | 倉田 秀夫(経1) |



## 各校の定期演奏会スケジュール

### '82 12月11日(土) 第78回同志社グリークラブ定期演奏会

6:00PM 開場 6:30PM 開演

■ ザ・シンフォニーホール

- 「聖ヨハネ・デオの祝日のミサ・プレヴィス」 作曲 Joseph Haydn 指揮 福永陽一郎 伴奏 アムジー室内合奏団 他
- 「合唱のためのコンポジションⅢ」 作曲 間宮芳生 指揮 富岡 健
- 男声合唱組曲「川よとわに美しく」 作曲 三枝成章 指揮 楠 敏也 伴奏 長田育忠 他
- 「コダーイ男声合唱曲集」(全4曲) 作曲 Kodaly Zoltan 指揮 富岡 健  
(連絡先) 同志社グリークラブBOX ☎075(431)9743

### '82 12月12日(日) 第24回関西大学グリークラブ定期演奏会

6:30PM 開場 7:00PM 開演

■ 大阪フェスティバルホール

- Missa Alma Redemptoris 作曲 Vincenzo Ruffo 指揮 ロベルト・ヴリーゲン
- 「ラ・マンチャの男」より 作曲 Mitch Leigh 編曲 福永陽一郎 指揮 林伸二郎 ピアノ 大出都紀子
- 男声合唱とピアノのための「ふるさと」 作曲 三善 晃 指揮 田中信昭 ピアノ 富米野令以子
- 男声合唱組曲「水墨集」 作曲 多田武彦 指揮 林伸二郎

(連絡先) 河野秀文 ☎0726(73)5018

### '82 12月14日(火) 立命館大学メンネルコール第36回定期演奏会

6:00PM 開場 6:30PM 開演

■ 京都会館第一ホール

- 男声合唱組曲「隠岐四景」 作曲 堀 悦子 指揮 片桐清実
- 「朔太郎の四つの詩」 作曲 清水 脩 指揮 尾関浩司
- 「シューベルト男声合唱曲集」より 作曲 F・Schubert 指揮 浦山弘三
- 男声合唱組曲「川よとわに美しく」 作曲 三枝成章 指揮 片桐清実 伴奏 山本篤子 他  
(連絡先) 天海俊充 ☎075(463)7162 (清水ハイツ)

### '83 1月10日(月) 大阪大学男声合唱団第30回定期演奏会

6:00PM 開場 6:30PM 開演

■ 大阪フェスティバルホール

- 男声合唱組曲「北斗の海」 作曲 多田武彦 指揮 坂田裕二
- 「男声合唱のための祝歌・悲歌・恋歌」 作曲 萩原英彦 指揮 坂田裕二
- The Broadway musical「A CHORUS LINE」 振付 金子 陽 編曲 鶴田敦子 指揮 鳩野逸生
- 「Motette Op. 93」 作曲 R.Schumann 指揮 櫻井吉明 伴奏 日本テレマン室内管弦楽団  
(連絡先) 西田良輝 ☎06(388)7389

### '83 1月19日(水) 第30回甲南大学グリークラブリサイタル

5:30PM 開場 6:00PM 開演

■ 神戸文化大ホール

- 「草野心平の詩から」 作曲 多田武彦 指揮 西尾健司
- 「カムイの森で」 作曲 広瀬量平 指揮 大森栄一 伴奏 岡安早苗
- 「アーン歌曲集」より 作曲 R.Hahn 指揮 西尾健司 伴奏 森本恵子
- 「REQUIEM D-moll」 作曲 L.Cherubini 指揮 前田幸市郎 伴奏 芦屋交響楽団 他  
(連絡先) 大塚善之 ☎078(451)7569(呼)

### '83 第51回関西学院グリークラブリサイタル

- 1月23日(日) 新宿文化センター大ホール 1:00PM 開場 1:30PM 開演
- 1月29日(土) 神戸文化ホール大ホール 5:30PM 開場 6:00PM 開演
- 1月30日(日) 大阪フェスティバルホール 5:30PM 開場 6:00PM 開演

- Missa Dominicalis 作曲 J.Kromolicki 指揮 林雄一郎
- 男声合唱組曲「川よとわに美しく」 作曲 三枝成章 指揮 坂口和彦
- 歌劇「さまよえるオランダ人」より 作曲 R.ワーグナー 指揮 畑中良輔
- 「南太平洋」 作曲 Richard Rodgers 指揮 北村協一
- 男声合唱組曲「尾崎喜八の詩から」 作曲 多田武彦 指揮 北村協一

(連絡先) 関西学院グリークラブ ☎0798(52)6471



●後列サブ 北垣 柿野 瀧中 山極 西尾 八木  
●前列チーフ 三木 中間 前田 酒井 小田 西田

### ■ 関西六大学合唱連盟常任委員

関西大学グリークラブ 三木 英和(ステージ)  
立命館大学メンネルコール 中間了吾(ステージ)  
甲南大学グリークラブ 前田 淳造(幹事)  
大阪大学男声合唱団 酒井 正浩(印刷)  
同志社グリークラブ 小田 尚紀(印刷)  
関西学院グリークラブ 西田 淳一(会計)

### ■ 第9回演奏会実行委員

関西大学グリークラブ 北垣 弘  
立命館大学メンネルコール 柿野 元博  
甲南大学グリークラブ 瀧中 哲郎  
大阪大学男声合唱団 山極 元穂  
同志社グリークラブ 西尾 強志  
関西学院グリークラブ 八木 徹

### \*\*\* 六連編集後記 \*\*\*

今年の六連演奏会、それにこのパンフ、如何でしたでしょうか。特にパンフ作りには2人が代表してあたりましたが、スクールカラーも違い、個人の性格も全く反対で、激しい反目と苦悩の中で遂に完成したのです。またデザインは同志社の豊田君が全面的に協力、個性的な図柄と配色を考えてくれました。このパンフ、見ていただければわかる様に、出来る限り斬新的なものと心掛け、印刷担当者が無い智恵をしぼって考えました。特に新聞のページでは阪大の酒井君が計算器片手に字数計算、文字の大小等厳密に調べ完成してくれました。また文章の所々に見られるタザイ(太宰)ズムには同志社の小田君の性格の一端が見られます。とにかく最初楽しくやり始めたパンフ作り、あまりに楽しくやり過ぎて、結局最後まで時間に追われるということになりましたが、何とか今日の演奏会に間に合いました。それだけに、一人でも多くの方に楽しく読んでいただきたいと、私達六連委員は願っています。

最後になりましたが、編集にあたり、原稿をお寄せ下さった諸先生方、快よく広告の掲載を御承諾下さった広告主の皆様、また、いろいろとアドバイスを頂きました中央印刷の皆様に対し厚く御礼申し上げますとともに、今後ともよろしく御教導下さいませよう御願い申し上げます。

——六連委員一同——